２０２４年度

(令和６年度)

事 業 報 告 書

2024年4月1日～2025年3月31日

学 校 法 人 桐　朋　学　園

目　次

Ⅰ　法人の概要
１　基本情報 1
２　建学の精神 1
３　学校法人の沿革 2
４　設置する学校・学部・学科等 3
５　学校・学部・学科等の学生等数の状況 3
６　収容定員充足率 4
７　役員の概要 4
８　評議員の概要 5
９　理事選任機関の概要 6
10　教職員の概要 6

Ⅱ　事業の概要
１　主な教育・研究の概要 7
２　中期的な計画について 10
３　事業総括、主な事業計画及び進捗状況
（１）法人 12
（２）男子部門 14
（３）女子部門 18
（４）音楽部門 25
４　その他
（１）施設設備 28
（２）学費及び補助金等 29
（３）入学試験結果 31
（４）教職員研究研修 33

Ⅲ　財務の概要
１　決算の概要
（１）貸借対照表関係 35
（２）事業活動収支計算書関係 36
（３）資金収支計算書関係 37
２　その他
（１）資産運用の状況 38
（２）学校債の状況 38
（３）寄付金の状況 38
（４）補助金の状況 39
３　経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応
（１）男子部門 40
（２）女子部門 41
（３）音楽部門 41

Ⅳ　学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要
１　関係する決議の概要 43
２　体制整備及び運用状況の概要 44

附属明細書 45

Ⅰ　法人の概要

1　基本情報

（1）法人の名称　学校法人　桐朋学園

（2）主たる事務所　住所　〒182-8510　東京都調布市若葉町１-41-１

電話番号　03-3300-2458

ＦＡＸ番号　03-3300-2459

ホームページアドレス　https://www.toho-gakuen.com

2　建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計３つのキャンパスを持つ音楽部門の、３つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

３つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

（1）男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

「『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

（2）女子部門

桐朋幼稚園

「一人ひとりの、幸せな子ども時代のために」
「子ども一人ひとりを原点にした保育の実現」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点に教育の実現」
「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「『こころの健康　からだの健康』をモットーに、『ことばの力』を大切にし、創造力に富んだ主体性のある人間を育成する」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

（3）音楽部門

桐朋学園大学
桐朋学園大学大学院
桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」
「音楽教育による社会貢献」
「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育　聴音教育による音感やリズム感の育成」
「理論や知識のシステマチックな教育」
「音楽スタイルの理解とその実践」
「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」
「感性教育の実践」

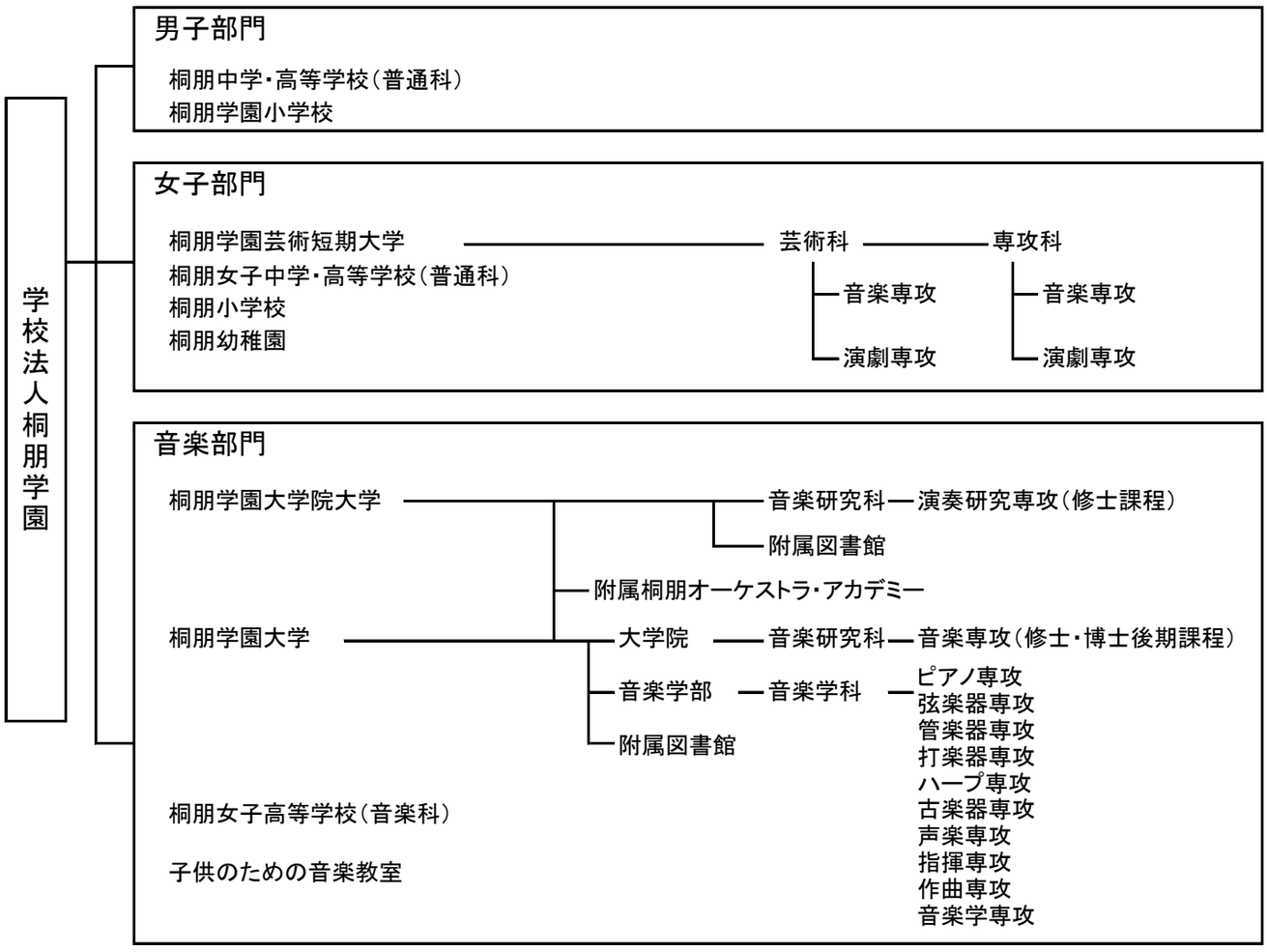
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3　学校法人の沿革

昭和15年11月7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年3月4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。 尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年4月1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年3月5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月29日東京都より認可)
昭和27年3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年2月1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成7年9月1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年5月1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4　設置する学校・学部・学科等



5　学校・学部・学科等の学生等数の状況

（2024年5月1日現在）

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻				
	修士課程	10	7	20	12
桐朋学園大学	大学院				
	音楽研究科修士課程	45	46	90	102
	音楽研究科博士後期課程	3	5	9	15
	音楽学部　音楽学科	180	112	720	561
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	74	240	171
桐朋高等学校	全日制課程　普通科	350	313	1,050	951
桐朋女子高等学校	全日制課程　普通科	350	177	1,050	499
	音楽科	100	52	300	164
桐朋中学校		300	256	900	788
桐朋女子中学校		300	187	900	499
桐朋学園小学校		80	72	480	429
桐朋小学校		80	72	480	432
桐朋幼稚園		26	25	80	77
	総計	1,944	1,398	6,319	4,700

6　収容定員充足率

（毎年度5月1日現在）

学校名	学部・学科・課程名等	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻					
	修士課程	0.95	0.85	0.50	0.60	0.70
桐朋学園大学	大学院　音楽研究科	1.53	1.38	1.29	1.18	1.34
	音楽学部　音楽学科	0.93	0.88	0.85	0.77	0.72
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	0.97	0.89	0.85	0.71	0.76
桐朋高等学校	全日制課程　普通科	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
桐朋女子高等学校	全日制課程　普通科	0.46	0.47	0.46	0.47	0.46
	音楽科	0.53	0.55	0.53	0.54	0.55
桐朋中学校		0.89	0.89	0.87	0.87	0.86
桐朋女子中学校		0.54	0.53	0.53	0.55	0.58
桐朋学園小学校		0.89	0.89	0.88	0.89	0.88
桐朋小学校		0.90	0.90	0.89	0.90	0.90
桐朋幼稚園		0.98	1.00	0.97	0.96	0.98

7　役員の概要

理事：定数 13～15人　現員 13人　　監事：定数2～4人　現員 2人　　（2025年3月31日現在）

	氏　名	就任年月日 （直近重任日）	常勤・非常勤の別	外部理事該当の有無	主な現職等
＊ 理事	河原　勇人	2010.4.1 （2022.4.1）	常勤		理事長、元桐朋女子中学・高等学校校長
＊ 理事	原口　大助	2021.4.1 （2022.4.1）	常勤		桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長 男子部門代表理事
＊ 理事	中村　博	2024.11.16	常勤		桐朋小学校校長・桐朋幼稚園園長 女子部門代表理事
＊ 理事	辰巳　明子	2022.4.1	常勤		桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長 音楽部門代表理事
＊ 理事	岡田　直紀	2024.4.1	常勤		桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
＊ 理事	松原　秀樹	2024.4.1	常勤		桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校教諭
＊ 理事	長瀬　浩平	2019.4.1 （2022.4.1）	常勤		桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
※ 理事	矢島　基美	2016.4.1 （2022.4.1）	非常勤	○	(学)上智学院理事・評議員、上智大学特任教授
※ 理事	薄井　紀子	2016.4.1 （2022.4.1）	非常勤	○	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	梅津　時比古	2013.4.1 （2023.4.1）	非常勤		桐朋学園大学音楽学部特命教授 前桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長
※ 理事	関口　榮司	2018.4.1 （2024.4.1）	非常勤	○	前保隣教育財団理事、元保善高等学校校長
※ 理事	片岡　哲郎	2021.4.1 （2024.4.1）	非常勤		開智所沢小学校校長 前桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長
※ 理事	津田　伸子	2022.4.1	非常勤	○	(有)サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
※ 監事	伊藤　昌毅	2016.4.1 （2022.4.1）	非常勤		弁護士、(学)武蔵野学院理事
※ 監事	関口　恭三	2018.4.1 （2024.4.1）	非常勤		公認会計士

・業務執行・非業務執行の別…＊が業務執行理事

・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第44条の２で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定により、上記※の役員との間に、同法第44条の２の役員の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

締結の事実はございません。

8　評議員の概要

定数 34～37人　　＊は理事兼任者13人
現員 34人　　（2025年3月31日現在）

氏　名	就任年月日　（直近重任日）	主な現職等
有馬　佑介	2025.3.31	桐朋学園小学校教諭
久保田　顕二	2023.5.31	桐朋中学・高等学校教諭
檜垣　卓宏	2024.4.1	桐朋中学・高等学校教諭
土舘　智子	2021.4.1　（2023.4.1）	桐朋学園男子部門事務職員
佐久間　彩子	2016.4.1　（2022.4.1）	桐朋小学校教諭
吉川　陽大	2023.4.1	桐朋女子中学・高等学校教諭
永井　由比	2022.4.1	桐朋学園芸術短期大学教授
進藤　寛	2022.4.1	桐朋学園女子部門事務職員
合田　香	2019.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園大学専任講師
中井　恒仁	2020.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園大学教授
沼野　雄司	2022.4.1	桐朋学園大学教授
鶴岡　純子	2019.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園音楽部門事務職員
津澤　絵理	2019.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園法人本部事務職員
相馬　次郎	2024.5.29	桐朋中学・高等学校同窓会長
千葉　裕子	2023.6.28	桐朋女子高等学校同窓会長
二宮　和子	2010.4.20　（2022.4.1）	桐朋学園音楽部門同窓会長
＊ 原口　大助	2021.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長
＊ 中村　博	2024.11.16	桐朋小学校校長・桐朋幼稚園園長
＊ 辰巳　明子	2022.4.1	桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長
＊ 岡田　直紀	2024.4.1	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
＊ 松原　秀樹	2024.4.1	桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校教諭
＊ 長瀬　浩平	2019.4.1　（2022.4.1）	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
＊ 河原　勇人	2010.4.1　（2022.4.1）	理事長、元桐朋女子中学・高等学校校長
＊ 関口　榮司	2018.4.1　（2021.4.1）	前保隣教育財団理事、元保善高等学校校長
＊ 片岡　哲郎	2021.4.1　（2024.4.1）	開智所沢小学校校長、前桐朋学園小学校校長・桐朋中学・高等学校校長
＊ 津田　伸子	2022.4.1	（有）サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
＊ 矢島　基美	2016.4.1　（2022.4.1）	(学)上智学院理事・評議員、上智大学特任教授
＊ 薄井　紀子	2016.4.1　（2022.4.1）	東京慈恵会医科大学客員教授
＊ 梅津　時比古	2013.4.1　（2023.4.1）	桐朋学園大学音楽学部特命教授、前桐朋学園大学学長・桐朋学園大学院大学学長
鳥羽　正浩	2024.5.29	桐朋中学・高等学校PTA会長、八王子医師会会長
草刈　大介	2024.5.29	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、ブルーシープ(株)代表取締役
木下　晶	2017.4.1　（2023.4.1）	富山県芸術文化協会参議
井上　淳子	2021.4.1　（2024.4.1）	(学)井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長
首藤　波津子	2017.4.1　（2023.4.1）	スポーツネットワークジャパン理事長

9　理事選任機関の概要

本法人の理事選任機関は、理事会です（寄附行為第６条第１項）。理事選任機関は、全ての理事をもって構成され（同条第２項）、理事を選任するときは、あらかじめ、評議員会の意見を聴取し、その意見を十分に参酌することとしています（同条第３項及び同条第４項）。

その他理事選任機関の運営等については、下記のとおりです。

招集	理事長による招集
定足数	特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数
議長	男子部門・女子部門・音楽部門の各代表理事のうちから理事会の定めた者
決議要件	出席者の過半数

構成員は、「役員の概要」（４頁）をご参照ください。

10　教職員の概要

（2025年5月1日現在）

部門	区分／学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	47	11	15	14
	桐朋中学校	37	7	15	8
	桐朋学園小学校	23	0	4	10
	計	107	＊1　18	34	32
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	20	6	137	2
	桐朋女子高等学校普通科	39	15	42	12
	桐朋女子中学校	28	2	32	10
	桐朋小学校	24	2	7	14
	桐朋幼稚園	7	0	1	7
	計	＊2　118	25	219	45
音楽部門	桐朋学園大学院大学	5	4	4	0
	桐朋学園大学・大学院	41	20	404	42
	桐朋女子高等学校音楽科	9	6	22	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	358	9
	計	55	30	＊3　788	53
法人本部			3		1
	総計	280	76	1,041	131

＊1　外国語指導助手(ALT)を含む。

＊2　特任教授、代替教員を含む。

＊3　非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ　事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

（１）桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を修得するとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の建学の精神・教育目的を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を主眼としつつ、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

（２）桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

Ⅰ　専門分野を究めるための表現・意欲の分野
・音楽の伝統文化を継承しながら、実践的でレベルの高い個性ある表現力を有している
・専門分野を主体的に学び続ける力を持っている

Ⅱ　専門を支える基礎力としての知識・技能の分野
・音楽家として必要な理論・知識・技能を有している
・耳と感性の訓練により、自身の音を聴き、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている

Ⅲ　柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野
・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
・今日的な課題について多角的な視点から見つめ、適切な判断ができる

Ⅳ　専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野
・個人の能力を生かして、他者とともに音楽をつくり、みずからの能力もさらに広げていくことができる
・幅広い音楽文化を学び、音楽表現の可能性を広げることができる

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

ディプロマ・ポリシーに掲げた４分野の能力を習得するため、３群の科目群を用意し、必修部分と選択部分を設定する。詳しくは、以下に掲載している。

https://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

（３）桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

音楽実践に不可欠な高度な能力を養い、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の５コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した、以下の教育課程を編成している。 修士課程は２年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。

〈ピアノコース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な技術と豊かな芸術性を持ったピアニストを育成する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスンも多く用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈弦楽器コース〉

学士教育をさらに発展させながら、より高度なレヴェルで演奏家としての能力を向上させる。そのために必要な実践的、理論的な専門性を持った研究を展開する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスン等も用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈声楽コース〉

学士教育をさらに発展させながら、オペラ研究分野、歌曲研究分野を置き、高度な専門性を有した研究を実施するとともに、豊かな芸術性を育む。各自の研究分野について豊かな演奏実践を経験させるとともに、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈作曲コース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な作曲法の体得と現代を含む作曲家の作品の緻密な分析を展開し創作を発展に導く。作品発表も積極的に行い実践においても更なる向上を目指す。

〈音楽学コース〉

学士教育をさらに発展させながら、現代にふさわしい多面的な視点と精緻な実証性を備えた研究を展開する。国際的な成果の達成に向けて、外国語及び日本語文献の精読を徹底するとともに、豊富な発表機会を設け、音楽大学ならではの芸術的感性と学者としての高度な論理性を両立させた専門性の高い音楽学者の道へと導く。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院修士課程は、高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践や教育を行う人材の養成を目的としている。この教育理念に基づき、音楽に関する見識、技術を有し、なおかつ幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる人材を求めている。

（４）桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を獲得し、音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力、および音楽教育を発展させる指導者になり得る素養を身につけ、博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

上記ポリシーの実現のために、ピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の５つの研究領域を置き、各自の専門とする領域について学術研究を行う。年次ごとの研究指導のもとで作成する研究計画書に基づいて研究を計画的に実施するとともに、その成果を逐次まとめ、発表する。音楽作品、演奏様式等についての知識を深めるとともに、音楽研究に必要な様々な方法論を取得し、自らの研究の礎とする。また、討論や研究発表などを通じて積極的に問題提起を行い、研究成果のプレゼンテーションの技術も高めていく。最終的には、演奏を通じた実践的研究と学術的研究が一体化した統合的な研究を目指し、その成果として研究演奏及び博士論文の執筆と公表を義務づけている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は、専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得しており、さらに自らの研究課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、実践、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある人材を求めている。

（５）桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として２年間の教育課程を組み、具体化していく。

・〈楽譜を読み取る力〉
音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。

・〈演奏表現〉
個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。

・〈アンサンブル〉
古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- 専門実技、音楽理論においての知識と基礎的な理解力を有する者。（知識・理解）
- 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。（思考・判断）
- 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心をもち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。（態度）
- プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。（技能・表現）

（６）桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として２年間の教育課程を組み、具体化していく。

・〈戯曲を読み解く力〉
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。

・〈身体訓練〉
声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。

・〈アンサンブル〉
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。（知識・理解）
- 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。（思考・判断）
- 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心をもち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。（態度）
- 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。（技能・表現）

2　中期的な計画について

桐朋学園では、2024年度から始まる５か年の中期的な計画（以下「中期計画」といいます。）を新たに作成しました（2024年３月19日評議員会承認、同日理事会決定）。

本法人では、これまで毎期に改定を行うローリング方式にて中期計画を作成してきましたが、新しい中期計画は５年度間のフィックス方式としました。

法人を取り巻く環境の変化に柔軟に対応すべく採用したローリング方式でしたが、掲げた目標が希薄化するなど、その問題点が浮き彫りになってきたためです。

ローリング方式採用では、５年後の各学校のあるべき姿について再検討を行い、新たな中期計画では改めて中期目標を明瞭にすると共に、目標達成意識の継続のため、可能な範囲で年度ごとのマイルストーンも設定しました。

なお、本法人は、男子部門・女子部門・音楽部門という３つの部門で構成されています。３つの部門はそれぞれが所管する学校の教育と運営を責任を持って主体的に進めており、そのため中期計画の作成も３部門それぞれが主体的に行っていますが、作成にあたっては、以下の法人全体の基本方針を踏まえています。

Ⅰ　**【教育】**教育研究活動の改善及び質の向上を図り、自ら課題を発見し、多様な価値観の混在する社会に主体的に対応できる人間を育成する。

Ⅱ　**【人事】**優秀な教職員を確保して、適正な人事計画のもと教育研究活動に資する人材を育成する。法人内の連携強化のため優秀な人材を活用する。

Ⅲ　**【財務】**財政基盤の安定化を図るため、必要な学生生徒数を確保するとともに経費の削減に積極的に取り組む。

Ⅳ　**【施設設備】**施設設備を整備して、教育研究環境の充実と向上を図る。

Ⅴ　**【組織】**部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。

各部門が掲げた中期計画の課題は、以下のとおりです。主な課題については、2024年度の実施状況等も略記しました。詳細は、「３　事業総括、主な事業計画と進捗状況」（本報告書14頁～27頁）をご覧ください。

○男子部門

	学校名	課題
教育	桐朋中学校・高等学校	教育の質の向上
		入学者の学力支援
		進路指導の充実
		ICT機器の整備と活用
		研修・行事プログラムの充実
	桐朋学園小学校	**教育環境の整備**
		研修・行事プログラムの充実
人事		専任教職員数の適正化
		外国人専任教員の採用
		職制改革
		働き方改革
		高年齢者の雇用
財務		**志願者数の確保**
		収入基盤の確保
		補助金の確保
		外部資金の獲得
		適正な収支バランスの維持
施設設備		学内ネットワークシステム構築
		既存設備の点検・見直し・改善
		省エネルギー・省資源対応

進路指導の充実
2024：研究室・企業へのOB訪問を例年並に実施
2025：企画を安定的に維持していく体制を検討予定

ICT機器の整備と活用
2024：タブレットの活用は高校のみに
　　情報リテラシー教育のための講演会を各学年で実施
2025：スマートフォンの利用ルールを作成予定

教育環境の整備
2024：高学年の一部授業で「教科担任制」を実施
2025：担任の負担軽減策を検討予定

外国人専任教員の採用
2024：職務内容・待遇等の検討
2025：詳細を決定予定

志願者数の確保
2024：中高学級定員2名減決定（開始:中2026・高2029）
2025：定員減に伴う学費増額を決定予定
　　小学校学級定員34名の実施

既存設備の点検・見直し・改善
2024：設備の使用状況確認，
2025：補修計画の策定予定

○女子部門

	学校名	課題
教育	桐朋学園芸術短期大学	教育の質の向上 **学生の確保**
	桐朋女子中学・高等学校（普通科）	教育の質の向上 進学指導の充実 海外研修プログラムの充実 **大学との連携**
	桐朋小学校	教育の質の向上
	桐朋幼稚園	保育の質の向上
人事		教職員数の適正化 危機管理・ハラスメント対応 SD活動の推進
財務		**志願者数の確保** 収入基盤の確保 外部資金の獲得 経費削減と適正な予算配分 業務の効率化 高年齢者の雇用
施設設備		**校舎改修** 教育環境の整備 省エネルギー・省資源対応

演劇専攻に「声優コース」を2025年度新設
→演劇系教育の強化が狙い

・都内5大学（東京女子大、電通大、日本女子大、東京慈恵会医科大、津田塾大）と連携協定を締結済
・更なる高等教育機関との連携を検討中

短大:アウトリーチによる高校生対象の演技指導実施
(札幌・香川)
中高:ほぼ毎日,平日は個別対応による説明会を実施
幼小:「園庭・しぜん広場」での遊ぶ会等実施

全面改修から部分改修に計画を変更

○音楽部門

	学校名	課題
教育	桐朋学園大学(学部)	**教育の質の保証** **学生の確保・広報** 地域との連携 民間企業との連携 **海外研究機関との連携**
	桐朋学園大学(大学院)	**学生の確保**
	桐朋女子高等学校（音楽科）	**教育の質の保証** **生徒の確保・広報**
	音楽教室	教育の質の保証
	桐朋学園大学院大学	**教育の質の保証** 学生の確保・広報 公開講座受講
	オーケストラ・アカデミー	**教育の質の保証** 在籍者数の確保 演奏会の充実
人事		適正な人員構成の検討 高年齢者の雇用 職制改革 SD活動の推進 FD活動の推進
財務		適正な収支バランスの維持 補助金の確保 音楽教室累積赤字の解消 **外部資金の獲得** 学生の確保 在籍者の適時把握（音楽教室生） 業務の効率化
施設設備		校舎補修・メンテナンス

・「MSD（Music and Sound Design）」の新設
・専攻名の変更(「音楽学」→「ミュージコロジー」) 音楽に関わる様々な分野を幅広く扱うカリキュラムに刷新
・魅力あるマスタークラスの開設.2024年度は約60回開講

・2024年度は体験レッスン会7回実施,参加者約70名
・総合型等多様な入試方式の導入
・音楽教室との連携_大学教員による特別授業43回実施

・外国人招聘教員の充実_2024年度は20名
・中国中央音楽院との連携に向けて協議

留学生入試の実施、室内楽コースの新設

学校説明会・体験レッスン会の充実、強化
音楽教室向け広報プログラムを刷新。音楽教室生向け授業見学会にて「オーケストラ演奏体験プログラム」実施

2024年度実施の公開講座10回、延べ139名の受講者

2024年度実施の演奏会7回

目標額1,600万円を大きく上回る寄付金の獲得

３　事業総括、主な事業計画及び進捗状況

（１）法人

①「はじめに」桐朋学園の構成など

桐朋学園が経営方針として重視しているのが、三部門独立採算制と教育第一主義を守り、かつ、法人としての一体感を以て経営にあたることです。

桐朋学園は、部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかなりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。その上で三部門は、法人としての一体性との両立を堅持し、一個の法人として成り立つ組織でなければなりません。そのことが、部門間の相互理解を醸成し、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。

部門ごとに教育には特色がありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の三部門から成っています。男子部門には、桐朋高等学校、桐朋中学校、桐朋学園小学校（共学）があり、2,168名の生徒・児童が学んでいます。女子部門には、桐朋学園芸術短期大学、桐朋女子高等学校・普通科、桐朋女子中学校、桐朋小学校（共学）、桐朋幼稚園（共学）があり、1,678名の学生・生徒・児童・園児が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋学園大学音楽学部並びに大学院と、桐朋女子高等学校・音楽科（共学）が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、854名の学生・生徒が学んでいます。別に付属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上にように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

学校経営の厳しさと先行きの不透明感は年々強まり、学校法人桐朋学園の永続的な存続・発展のために、私ども法人には、男子・女子・音楽三部門のそれぞれの持ち味を生かした、特色ある取り組みや魅力ある質の高い教育と研究が求められています。

「外部状況の変化」という点では、少子化の問題、教職員の働き方改革の問題、科学技術の進歩を含めた社会情勢の変化等、対策が必要な多くの課題に囲まれています。少子化については先行きを予測し、各部門対策を講ずべく検討してきました。長時間労働・働き方改革の問題も度々マスコミにも取りあげられ、若者の職業選択の考え方にも影響を与えて居り、教員採用の応募数の減少等を招いています。また、子どもたちを取り巻く社会では、ICT（情報通信技術）の発展と浸透が教育の未来を大きく変えようとしている現実があります。

NTTドコモの研究所によれば中学生のSNS使用の割合は９割を超えて居り、多くの子どもにとって、いまやコミュニケーションを支える絶対的ツールがSNSであるという前提があるといえます。ソーシャルメディア、アルゴリズム、人工知能（AI）など、情報技術は私どもの生活にたくさんの恩恵とともに様々な問題をももたらしました。オーストラリア政府が16歳未満のSNS利用を禁止する法案を可決したニュースは世界を驚かせましたし、SNSは便利な反面、多くの危険を孕むのが現実です。SNSが若者のメンタルヘルスに悪影響を及ぼす可能性も多くの専門家によって指摘されています。

また調査によると、現代人の情報取得は新聞等の活字媒体よりも、SNS利用者が上回ったようです。活字媒体にはプロの書き手とプロの編集者が居り、読まれるに値するものを生み出すために多くの時間と労力が費やされ、言論の質が担保されてきたと言っても過言ではありません。SNSが普及した現代は、人は自分の考えを自由に発信し、社会は客観的なチェックを受けない言説に溢れています。現代の若者は浅薄なSNS情報を無批判に受け入れることに慣れ、読書し熟考するという習慣から遠ざかりました。本来合理的・理性的であるはずの社会で、人々は非合理的な判断で行動することとなり、影響は個人に止まらず、集団へと拡大して行くことになります。そんな時代に生きているからこそ若い人には、高い情報リテラシーを以てネットを駆使し、本を読み考える力を養い、理性の備わった人間として成長して欲しいと願い指導を徹底しています。

以下、2024年度における各部門の主な事業に触れますが、詳細は各部門の報告を参照してください。

③男子部門の主な事業

進行する少子化への部門としての対策の検討が進み、2023年度小学校の定員削減計画に続いて、中学高校の方針及び全体の授業料の改定案も概ね計画がかたまり、実施に向け計画が一部進められました。ICT教育環境の整備も段階的に進めてきましたが、検討の結果タブレット端末を活用しての授業は高校からと改めて決定しました。加えて全校生徒に情報リテラシー教育を徹底し、利用のルール化を進めて行く予定です。

小学校高学年担任に偏る負担の大きさを軽減させる対策が検討されてきましたが、一定の方向性が得られ実施の準備が整いました。

④女子部門の主な事業

女子部門全体にわたる校舎の大規模改修計画は全学でコンセンサスを得るのが難しく、資材・建築費の異常なほどの高騰と相まって計画そのものが迷走し進展を見ることができませんでした。短期大学演劇専攻の四大化構想は、音楽部門との間で検討が重ねられ、専門部会を発足させ細部の検討に入りましたが、詰めるべき課題は大きく、顕著な進展は未だ見られていません。

中高の探究学習「T-Project」は、高１による検証と修正の２年の活動を踏まえ、2024年度は中３を加えたＢブロック２学年の取り組みとなり、充実した３年目を終えました。中高６学年は情報リテラシー教育を徹底し、全員がタブレット端末を活用し、授業のみに止まらぬ浸透が図られました。

⑤音楽部門の主な事業

志願者回復を目指して一丸となって改革に取り組みました。音楽学専攻を「ミュージコロジー」と改名し内容を刷新し、より幅広く「音楽」に関わるさまざまな分野を扱うカリキュラムに変更しました。それによってクラシック以外の音楽を学べる講座や、アートマネジメントのための講座も加わりました。これは伝統的な音楽教育に時代のニーズに合った新しい要素を加える改革であり、入試制度も併せて一部変更しました。

大手広告会社と提携して桐朋学園大学のブランディングを進めると共に、ホームページの大幅なリニューアルを行い、運用を開始しました。今後その効果を測りながら改良を進めて行く予定です。

⑥法人全体として

法令の改正・施行にともない理事会・評議員会の構成等、法人規程の必要な点検・改正を行いました。「学校法人桐朋学園寄附行為」の文部科学大臣の認可も得られ、「内部統制システム整備の基本方針」が理事会で決議され、これらを踏まえて、寄附行為施行細則はじめ法人運営の根幹を定めた規程の改正及び新規作成など、理事会における最終審議を１月に終え成立を見ました。

新規作成のものには「学校法人桐朋学園評議員会運営等規程」「同理事会運営等規程」があります。またその後、年度末にかけては監査規程の成立に力を注ぎ、「学校法人桐朋学園監事監査規程」、懸案だった「同内部監査規程」が成立しました。

2024年度を起点とする新たな５か年中期計画の充実と、ガバナンス体制の整備に細心の注意を払う１年でした。中期計画は、各部門、立案されながら手つかずに終わった計画もあり、2025年度の調整と計画の推進に注視しなければならないと考えています。

（学校法人桐朋学園　理事長　河原　勇人）

（２）男子部門

①2024年度の事業の概要

感染症をそこまで気に留めずに過ごせた2024年度ですが、インフルエンザ等による学級閉鎖、学園小では学校閉鎖の対応を余儀なくされることもありました。それでも、日常の学校生活はもちろん、宿泊行事をはじめすべての行事を予定した形で行うことができ、小学6年生の臨海学校では絶好の天候の下、遠泳を実施できましたし、中高の桐朋祭は、1万人を超える一般来場者を迎え活気溢れる中、参加団体・委員の生徒は充実した活動を行うことができました。

2024年度の男子部門事業計画のうち、主な実施状況をご報告いたします。最も大きな点としては、少子化対策として2023年度末に学内での合意に至った学園小の定員減計画に加え、2024年度末には中高の定員減計画も学内での合意に至りました。これで、向こう10年ないし15年間の見通しは立てたことになります。2024年度にはこの定員減計画に応じた学費の見直しも学園小だけでなく中高も念頭に置いて行っており、財務計画も一定の精度で行いやすい状況とはなりました。

また、中高のICT教育に関わる機器の整備で、2024年度大きな判断をいたしました。2023年度の2学期以降、中3生および高1生にタブレット端末を導入し、学習での有効活用を模索していますが、使用のルールを守れない生徒指導上のトラブル、授業への集中力の低下など学習面でのマイナスに加え、機器の価格高騰が進み、公的機関からの補助金が下りない中学生には持たせるべきではないとの決定を下しました。一方、高校生には今後もタブレット端末を活用した学習は継続するので、教員間の研修を含め、授業をはじめとした学習での活用を研究してまいります。また、中学生の問題行動の多くがSNSなどの関連で生じ、スマホ中毒も懸念される状況もありますので、中学生に対する情報リテラシー教育を含め、指導の徹底にいっそう励む必要を感じています。

学園小ではここ数年高学年担任の負担軽減策を講じる必要が話題になっており、2024年度の決定として、2025年度以降、高学年を含めすべての学年で持ち上がりをやめ、負担が一部の教員に偏らない形としました。

施設設備に関わる点では、現校舎が竣工後10年あまり経ち、保守点検の必要が高まっているため、2024年度に今後の保守点検計画を立てるための準備に着手し、2025年度より本格的に検討を進めていく予定です。

児童・生徒の安定的な確保に関してですが、小・中・高ともに微増の範囲ではありますが、入学者もしっかり定員を確保できています。その一方、コアネット教育総合研究所が五年に一度行っている「私立中学の校風調査」に十年ぶりに参加し、中学をはじめ本校の印象について詳細なデータをいただいています。気になる点として、本校の認知度が下降傾向にあり、特に偏差値最上位層での認知が下がっているとの指摘がありました。今後、広報活動をどう展開し、指摘のあった点の改善に繋げていくのか、検討を重ねつつ取り組めることから速やかに実践し、児童・生徒の安定的な確保を実現してまいります。

最後に、2025年度に向けた大学合格状況についてです。4月初の集計で、卒業した79期生の国公立大や私立大の合格者総数は平均的かやや多めの数となり、合格体験率は75%、現役進学率も58%と、ともにここ10年間で最大の数字となっています。東大・東工大・一橋大・京大・国公立医学部の現役合格者総数は28名で、ここ10年の平均的な数となりました。この学年は、受験者数と受験者数で算出する合格率は東大で過去にないほど高かったのですが、一橋大などで伸び悩んだ感があります。生徒の希望を叶える進路指導の工夫にいっそう取り組んでまいりたいと考えております。

②2024年度の主な事業計画及びその進捗状況

○教育（桐朋中学校・高等学校）

事業名 教育の質の向上を目指す課題の提示と実践

概要

・2024年度に新教育課程の実施が完了したことを受け、その効果･実績･課題を検証する。

進捗状況等

・中学高校の全学年で新しい教育課程が実施され順調に授業が行われている。今後は進学実績を含めた効果を検証していく。

事業名 入学者の学力支援

概要

・校内での自習室開設に向けて検討を行う。

進捗状況等

・放課後学習の時間・場所の確保について、他校や支援業者からの情報を収集し本校が実施可能な形態を検討した。現職教員の勤務体制との調整、および外部への委託が実施条件となることが分かった。
・企画の運用面において、協力をしてくれる卒業生の安定的確保の問題や、運営する進路指導部の人員配置が依然課題として残り、翌年度の検討課題とした。

事業名 高校生の志望実現に向けた進路指導の充実

概要

・進路企画の充実を進める。

進捗状況等

・進路指導部の人員を１名増員し、高３における年内入試の業務をスムーズに行うことができた。
・生徒の知的好奇心を高めるための進路企画は昨年度と同程度の数を実施することができた。しかし、今後の企画の充実、安定的運営に関する抜本的な基盤作りを模索することは進展せず継続課題となった。
・企画の実績は以下の通り。
①10月 1日　東京慈恵会医科大学医学部訪問(岡部正隆先生ほか)
②10月30日　アイリス株式会社訪問(沖山翔氏)
③11月20日　栗田工業株式会社訪問(田辺尚氏)
④12月18日　東京大学法学部訪問(松原健太郎先生、梅林啓先生、大西楠テア先生)
⑤ 2月15日　医学部生との懇談会(本校にて。中野渡康太朗君をはじめとする医学部生)

事業名 新学習指導要領下での電子情報機器の活用

概要

・中1、中2へのタブレット導入について検討する。
・情報リテラシー教育

進捗状況等

・中学生のICT端末利用の必要性について議論をした結果、学習面でのデメリット、生徒指導上の理由、端末価格の高騰などから、2025年度以降中学は導入せず、高校からの導入を決定した。
・電子黒板の導入、さらには授業中に充電が切れる生徒がいることから持ち運びが可能なバッテリーを購入した。
・中学生を含め、各学年で情報リテラシーを高める講演会が行われた。
・特に中学生に対するICT端末の利用法について、スマートフォンの利用法とも合わせて新しいルールの策定を進めていく。

事業名 研修･行事プログラムの充実

概要

・各行事の意義の再確認とそれに基づく生徒の活動内容を見直し、実施する。
・グローバル化対応および語学研修の充実

進捗状況等

・中学運動会を熱中症対策として10月から11月に移行実施した。
・中学の遠足について、生徒の体力面での現状把握をし、安全対策の充実した行程を検討した。また、中学生の体力の変化を考え、コースの変更、指導体制の見直しを複数年にわたって行う。
・ハロウ校サマースクールを実施し50人の参加者があった。2025年度も継続して実施する。

○教育（桐朋学園小学校）

事業名 教育環境の整備を目指す課題の提示と実践

概要

・教科担任制・専科制の検討を進める。

進捗状況等

・2023年度に引き続き、今年度も5、6年生において担任2人が国語と社会を持ち替えて担当した。
・児童対応の観点から2025年度以降の担任持ち上がりの是非を検討した。
・高学年担任の負担が一層顕著になったことを受け、次年度以降サポート体制の検証を進める。

事業名 研修･行事プログラムの充実

概要

・タブレット端末一人一台の可否を決定する。
・情報リテラシー教育を進める。
・国際理解教育を進める。

進捗状況等

・2024年度は学校備品であるiPad78台を 3、4、5、6年生が授業で活用した。また5、6年生はクラブや委員会、放課後の自主的な活動でも使用した。本校が掲げる「本物に触れる」教育を損なうことのないよう「タブレット端末は必要な時に使える環境を整えておく」に留めることとし、一人1台所持させることは当面見送ることにした。
・ネットリテラシー教育については、東京都都民安全推進部から講師を招いて5、6年生向けと、保護者向けの講習会を実施した。
・情報環境の急速な変化に追いついていくのが困難な現状を見据え、小学生の情報リテラシー教育における常に新しい知見を継続的に追い対策を講じていく。
・今年度は、エジプトからの一橋大学留学生を招いて、3～6年生がエジプトの文化や生活、学校の様子等の話をうかがった。

○人事

事業名 専任教職員数の適正化

概要

・2026年度職員増員の検討を行う。

進捗状況等

・2023年度のICT教育導入に伴い職員の増員を検討したが、2025年度からのICT端末導入を高校のみとしたため職員の1名増員は保留とした。

事業名 外国人専任教員の採用

概要

・専任採用の課題点等の整理

進捗状況等

・英語科から教科内職務に関する答申が提出されたことを受け、学校側が2025年度中に検討すべき専任としての職務内容・待遇等について検討を始めた。

事業名 職制改革

概要

・中高校務分掌および事務部職務内容の整理再編
・広報活動の充実

進捗状況等

・視聴覚業務について、2024年度より予算作成や設備更新計画等を図書館視聴覚から管財課が担当することにした。
・学校紹介の映像を作成した。年間を通して動画を撮りだめ、年度内に編集作業を終える。また、コロナ禍を経て学校説明会を見直しのうえ再編成し、さらには学校案内冊子改訂に向けて業者選定を行った。

事業名 働き方改革

概要

・変形労働時間制導入に向けての検討
・求人案内の検討

進捗状況等

・2024年度は実質的な検討は行えなかった。2025年度中に変形労働時間制の課題を整理し、実現の可否について方向性を確定させる。
・教職員採用の求人募集について、幅広い人材を取得するためWEB求人を検討のうえ決定した。また、応募者の待遇面について詳細な給与シミュレーションが出来るよう検討し、運用開始した。男性教職員の育児休暇は1年に満たない希望が多く、その間の臨時任用教職員の確保が話題となった。求人の工夫を2025年度に行う。

○財務

事業名 志望者数の確保

概要

・クラス定員減を目指す。
・高校入試改革を進める。
・小学校入試改革を検討する。
・近隣校の入試動向分析を進める。

進捗状況等

・中高においてクラス定員減の実施年度案を審議のうえ決定した。中学は2026年度から、高校は2029年度から各クラス2名の減とする。
・高校入試では延納金制度導入および補欠発表方式の変更を検討のうえ審議決定した。調査書の評価等については継続課題とした。
・小学校では、急加速する少子化への対策として、また「一人ひとりの心のすみずみにまで行きわたる教育」の実践に取り組むために2025年度入学の児童から1クラス34名（学年定員68名）とした。授業料等の変更（増額）も行ったが出願者数は増えた。次回のクラス定員減は2028年度を想定しているが、その妥当性について常時検討を加えていく。
・コアネット（学校経営シンクタンク）による私立中学の校風調査を実施した。年度末に届いた調査結果をもとに今後の入試動向、広報活動について検討した。

事業名 収入基盤の確保

概要

・小学校クラス定員減にともなう学費改定

進捗状況等

・クラス定員減による減収相殺分として2025年度新入生より教育環境整備費の月額4,000円値上げを決定した。また、2026年度、2029年度に着手する中・高それぞれのクラス定員減に対しても同額の値上げを試算した。
・2024年度より光熱水費高騰対策として児童・生徒諸費の月額1,000円値上げを実施した。
・今後の人件費・物件費の動向を見据え、また教育環境のさらなる改善に必要な予算確保を念頭に、次回の学費改定の時期を見定める。

事業名 補助金の確保

概要

・高校授業料実質無償化の調査･研究
・桐朋奨学会の見直し

進捗状況等

・高校入学説明会で、2024年度からの授業料軽減助成金と就学支援金の制度についての説明を保護者に行った。また、所得制限撤廃に伴い、授業料軽減助成金の申請漏れがないよう、都内在住生に制度の周知徹底を行った。
・高校の授業料実質無償化が受験応募者数に与える影響について、2024年度では明確な分析は得られなかったので、次年度以降も継続して検証していく。
・学園小学校児童が推薦会議後に奨学金申請が認められた場合、桐朋中学校進学後も継続して奨学金を受給できるよう規定を改定した。

事業名 適正な収支バランスの維持

概要

・学校資産の確保を目指し、具体的な方策を講じる。

進捗状況等

・施設引当特定資産として東京都債を１億円購入した。
・都債の利息を特定資産に組み入れることにより次期建築に向けて資産積立の可視化、増加を図った。
・今後は、財務の中期見通しについて物価上昇をより精確に加味した試算を検討する。

○施設設備

事業名 学校ネットワークシステムの構築

概要

・デジタル技術による業務の効率化

進捗状況等

・2024年度は、無線LANアクセスポイント設置場所を増設し校内でネットワークの利用環境を整えた。また、教職員用PCリプレイスを検討、2025年度夏の入れ替え実施までの計画を策定した。
・2024年度規程集の電子化を完了し、常時最新規程を共有出来るようにした。
・規定集については電子化と合わせて、シェアポイントの活用も検討する予定だったが出来なかった。2025年度はさらに利便性が向上するよう、検討を続けていく。

事業名 既存設備の点検、見直し、改善

概要

・各種設備の使用状況について確認を行う。

進捗状況等

・熱中症対策として冷房の設定温度の下限を24℃に設定した。これにより省エネ対策のみを講じるのではなく、生徒の学習環境の整備にも意識を向けた。
・現校舎が竣工10年を迎えたので、棟別に点検・補修の工程を策定していく。

事業名 省エネルギー、省資源対応

概要

・省エネ機器等切り替えの検討を行う。

進捗状況等

・2024年度は中高体育館と小学校北館のLED化を行った。また、省エネ対策として生活指導部主任が教員会議で、空調の使用方法について意識づけを行った。

（３）女子部門

①2024年度の事業の概要

女子部門では、学園の教育理念である「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ『人間教育』」をもとに、「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人間の育成をめざす」（短大部）、「『こころの健康　からだの健康』をモットーに、『ことばの力』を大切にし、創造力に富んだ主体性のある人間を育成する」（中高部）、「一人ひとりの幸せな子ども時代のために、生きるために必要な根を育てる」「子ども一人ひとりを原点に、自分自身の人生の主人公として、社会のつくり手となりゆくための根を育てる」（初等部）をそれぞれの教育目標として取り組みました。

短大部では、少人数のクラス編成による徹底した実践指導と、理論や知識を系統的に学ぶ講義科目からなるカリキュラムを通して、プロの演劇人や演奏家、生涯を通して演劇や音楽を慈しむ教養人を育てています。中高部では、実践や経験を通して自らの体で感じながら、知識や感性を高めることを大切に、生徒を主体的に行動させることを通して、過程から学びを得ることを実践し、創造力あふれる人間の育成をすすめています。初等部では、2025年度の創立70周年に向けて、創立60年から約10年間の取り組みを総括し、これからの保育、教育について、新園案内、新学校案内にまとめました。2025年度の創立70周年には、その実践を広く社会に周知することを推進します。

女子部門の重点課題は、志願者の安定的確保です。短大部では、演劇専攻の定員確保へ向けて、2025年度より志願者の見込める「声優コース」の導入を決定し、教育課程の編成および教員人事をすすめました。また、2025年度からの「演劇専攻全国ワークショップ」の本格的な運用を目指して、2024年度は北海道地区と四国地区において実験的に試み、両地区ともに好評を得ました。様々な取り組みにより、2025年度の両専攻入学者を増やすことができました。中高部では、学校説明会、平日の校内案内（随時受付）、A入試口頭試問およびCreative English入試のオンライン体験会（土曜日に実施）、高校推薦入試および併願優遇制度の基準変更、中学回りの地域を拡充（約180校を訪問）などの取り組みをすすめ、中学校の志願者を増やすことができました。今後は高校志願者を増やすために、広報などをさらにすすめます。初等部では、説明会や体験会を充実させ、幼稚園では男女ともに志願者を増やしました。小学校は安定して志願者を確保し、定員を確保しています。2025年度も安定した志願者確保に向けて、説明会や体験会を充実させていきます。

他の重点課題と今後の見通しについてです。女子部門全体では、急加速している少子化に対応するべく、各学校とも将来構想を検討する委員会を設置し、近未来における学校のあり方を検討しています。2025年度に、将来構想案を提案できるように計画をすすめます。女子部門全体にわたる大規模改修計画は、2024年度内に各校舎の建築・改修の基本計画を立案、2026年度末までに具体的なスケジュールを構築する予定でしたが、財務状況の厳しさがあり、建築費の高騰、借入の利息上昇などから、2025年度も継続して検討をすすめることにしました。八ヶ岳高原寮に関して、将来構想を 2024 年度内に立案、決定する計画でしたが、2024年度に結論を出せず、2025年度も継続審議し、結論を出すことにしました。

②２０２４年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園芸術短期大学

事業名　教育の改革と質保証

概要

2024年度より教学マネジメント委員会の中に短大将来構想委員会、芸術科学科会議を組み入れ、会議の必要事項の共有や連携がスムーズに行うことができた。次年度以降も引き続き教育改革に取り組んでいきたい。適切な学習成果の査定のため、短期大学生調査結果を活用し、建学の精神、教育目的の定期的点検と 三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、学習成果、アセスメント・ポリシーの定期的点検を実施する。アセスメント・ポリシーに基づくPDCAサイクルの活用と法令遵守（コンプライアンス）の徹底、単位の実質化の徹底、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基づく、体系的・順次的学習の促進を図る。専門科目の定期的点検、教養科目の定期的点検を行い、学位取得率の維持・向上を図る。シラバス電子化は「講義概要」部分の電子化を進めた。また演奏会、発表会、試演会、卒業公演、修了公演等による学内外への学習成果の公表に取り組む。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を推進し、「学生による授業評価アンケート」の活用、FD研修会への出席率の向上、講師説明会への出席率の向上を図る。

他大学との連携強化については、桐朋学園大学との単位互換制度の推進、東京演劇大学連盟との連携事業の展開、俳優教育システム研究会との連携事業の展開、JUCA全国芸術系大学コンソーシアム等との連携を図る。

自己点検評価の充実のため、短期大学生調査の結果の活用、自己点検・評価報告書のホームページでの定期的公表、内部質保証ルーブリックの活用、高等学校関係者等の意見聴取、認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認を行う。

進捗状況等

2019年度より一般財団法人大学・短期大学基準協会が年に１回実施する短期大学生調査に参加し、学習成果の査定に活用した。建学の精神と教育目的が、時代・社会のニーズと結びついているか、原則５年毎に点検を行う。
アセスメント・ポリシーに基づきPDCAサイクルを活用し、自己点検・評価活動を行い、課題と改善計画を明確にした。学校教育法、短期大学設置基準等の法令の遵守に努め、適正な授業回数の確保に努めた。修登録単位数の上限を定めるＣＡＰ制について規程の整備を行い、2024年度より学則に明記することとした。
「授業評価アンケート」の結果を活用し科目の点検を行った結果、2025年度に向けて芸術科と専攻科科目の一部を変更した。授業全体の総合的評価の満足度は92.7％であった。
学位取得率に関して、芸術科は在籍者の90％以上が短期大学士を、専攻科は大学改革支援・学位授与機構への申請者の90％以上が学士を取得することをめざしており、2024年度は88%（音楽81%、演劇93%）の取得率だった。
FD研修会（7月22日、12月16日開催）、講師説明会は当日出席できない教員にオンデマンドで視聴できるよう出席率向上のための対策をした。
桐朋学園大学との単位互換では、前期は延べ短大生59名、学部生30名の履修が認められた。後期も延べ短大生59名、学部生20名が単位互換希望があり、ほぼ希望通りの履修が認められた。2024年度の短大部は、短期大学創立創立60周年を記念して、短大演劇専攻が出自とする劇団俳優座の創立80周年の記念公演である『セチュアンの善人』とのコラボ公演が行われ、選抜された学生20名がプロの俳優と舞台を作り、盛会のうちに終了した（2024 年９月20日～28日六本木俳優座劇場）。
2024年度短期大学調査結果を分析し、自己点検・評価報告書に反映、結果をウェブサイトに掲載した。大学・短期大学基準協会による内部質保証ルーブリックを活用し、自己点検・評価活動を行っている。
認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認は、自己点検・評価委員会を中心に、進捗状況を確認している。教育情報の公表は、日本私立短期大学協会ガバナンス・コードに基づいて公開しているが、経年比較可能な形で公表されていない部分については見直しを継続して行った。

事業名 学生募集―入試志願者の安定的確保

概要

アドミッション・ポリシーに基づく学生募集を推進し、芸術科入学定員の学生数確保及び専攻科入学定員の学生数確保に努める。オープンキャンパス等への参加者数増加に向けた工夫を図るとともにウェブ出願に関する具体的検討も開始する。広報活動の強化に向けて、ホームページの活用、SNSの活用、活躍する卒業生・在学生の紹介に取り組む。

進捗状況等

2024年度の入学者数は、芸術科が入学定員（120名）に対し、音楽専攻25名、演劇専攻49名、入学定員充足率は61.6％に、専攻科は入学定員（各専攻20名）に対し、音楽専攻11名、演劇専攻19名、入学定員充足率は75.0％にとどまった。オープンキャンパス等への参加者数は、コロナ禍期間より増加はしているが、コロナ禍より以前に設定した評価指標を下回っている。演劇専攻はこの数年の検討事項であった声優コースの導入を決定し今年度初めての入試を迎えた。またコロナ禍に分断され中止を余儀なくされた演劇専攻フェロー入試（フェロー制度）の2026年度入試からの再導入を決定した。学生獲得とフェロー制度の再構築も含めて、全国各地（北海道、千葉、静岡、香川）の高校（８校）で演劇ワークショップを実施し延べ58名の生徒が参加をした。音楽専攻は社会人の受け入れを増やす試みとして履修証明プログラムの導入やオープンキャンパス等で長期履修制度の周知を徹底して行った。
広報活動に関して「本学を知ったきっかけ」はホームページが最多であり、リニューアルしたホームページのイベントレポート等の更新などより効果的な運用を進めた。また、twitter、 Facebook、 Line、 Instagram等でも情報を発信した。本学の教育目的を明確に示すためにも、卒業生・在学生の活躍を積極的に紹介。インタビュー記事のホームページ掲載も開始した。

事業名 将来構想

概要

短期大学将来構想の策定を図るため、芸術教育の将来像の検討を行うとともに、人事計画案、財務（事業活動収支）計画案、施設・設備の整備案の検討に取り組み、将来構想実現に向けた準備を始める。

進捗状況等

将来構想委員会を中心に短大の将来像を検討している。カリキュラム・ポリシーに基づく人事計画案を作成した。短大の将来のあり方を見据え、適切な定員管理とそれに見合った経費に基づく財務（事業活動収支）計画案の検討も進んでいる。施設・設備の整備に関しては、現在、女子部門の建築準備委員会が中心となって進めている校舎の改築・改修の計画を見守りつつ、教育環境委員会を中心に様々な課題に取り組んでいる。2024年度は短大の演劇学部構想を含めた将来構想の実現に向けて、音楽部門・女子部門構想検討会議が発足し、数回の会議の後、専門部会に分かれて具体的な協議、検討を始めた。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名　新教育課程の全面実施、女子中高の特性を活かした教育の展開

概要

新教育課程の完成年度を迎え、正課のプログラムはもちろん、課外活動も含めて、女子中高の特性を活かした教育を展開する。
①Ｂブロック（中３・高１）に「T-project」を設置して、探究型学習を推進する。
②国語科の段階を追った表現指導、外国語科の四技能育成などを通して、ことばの力を育てる。
③発表学習や学び合いを通して、伝え合う力、他者の意見を尊重する姿勢を育てる。
④生徒が中心となって企画・運営する学校行事、生徒会活動や部活動を通して、主体性や協働性を育む。

進捗状況等

中学・高校ともに、新教育課程が完成を見た。高校では、高３の設置科目が前年度と大きく変わり、中学は、教科によって時間数の増減があった。その中で、探究型学習である「T-Project」が初めて中３・高１の２学年で実施されたことは特筆に値する。自分で問いを立て、解決に導くための方法を考え、調査結果から考察して発表するという作業は、簡単なものではない。一人一人の発表を見ると、方法の的確さや考察の深さに個人差があることは否めないが、当初計画した生徒の自律的な学習という目標は達成したと言える。

事業名　進路指導の充実

概要

新学習指導要領のもとでの初めての大学入試を迎え、生徒一人一人の志望を尊重した進路指導を行う。
①各教科で大学入学共通テストの変更に対応した指導を行う。
②進路指導部で大学説明会、出張授業など、生徒が自分の進路に向き合う機会を設ける。
③英語外部検定の受検を促進する。
④総合型選抜や学校推薦型選抜の枠の増加に対応し、志望理由書作成や面接の個別指導を行う。
⑤校内での学習環境を整備する。

進捗状況等

各教科では、新しい大学入学共通テストの対策として、模擬問題の実施等の準備を行った。進路指導部では、例年行っている大学説明会や出張授業に加えて、美術系大学進学セミナー、医療系大学進学セミナー、国際系大学進学セミナーといった各種セミナーを開催し、早い段階で進路に対する意識を持たせるようにした。英検の会場校となり、近年ますます重要になっている英語外部検定の受検を促し、結果的に進学に結び付けた。総合型選抜や学校推薦型選抜の枠の増加に対応し、志望理由書作成や面接の指導を個別に行い、実績を上げた。さらに、学習環境を整えるため、以前からあった自習室に加えて、新たに6学年の生徒が中高図書館を放課後下校延長して使えるような仕組みをつくった。

事業名　ICT機器の活用と危険性の認識

概要

生徒一人一台持たせるタブレット端末の活用を推進するとともに、便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。
①生徒一人一台タブレット端末を持たせ、授業にとどまらずさまざまな面で活用させる。
②ＩＣＴリテラシー、メディアリテラシーを学び、正しい情報を見極めてモラルを守って発信する力を育成する。

進捗状況等

前年度に引き続き、中学高校の全生徒にタブレット端末を持たせた。様々な教科の授業で活用されており、生徒たちは授業以外にも、調べごと、生徒会活動、部活動、連絡手段など、あらゆる場面で自主的に活用している。2022年度から始めたオンライン英会話は、生徒と教員のスキルが共に向上し、順調に進めることができた。また、これは保護者が活用するものであるが、2023年度から導入した出欠のオンライン連絡も軌道に乗っている。

事業名　海外研修プログラムの充実

概要

世界に触れる経験を多くの生徒に用意する。
①ニュージーランド・ターム留学の実施。
②豪州・シンガポール研修の実施。

進捗状況等

７月から９月まで２か月以上かけて行うニュージーランド・ターム留学、夏休みに10日余りで行う豪州・シンガポール研修という二種類の海外研修プログラムを用意し、希望する生徒がそれぞれの目的に応じて参加した。どの生徒も貴重な経験をすることができた。

事業名　危機管理対応の充実

概要

非常時、災害時の対応についてマニュアルの再確認をし、生徒も含めて意識を高める。
①食物アレルギー発症等、救急時の対応の仕方を学ぶ。
②校内で避難訓練を実施する。
③事務局と連携し、消防機器の操作を学ぶ。

進捗状況等

年度当初に、教職員を対象に、エピペンの使い方、ＡＥＤの使い方の研修を実施し、食物アレルギーの対応の仕方、救急車の呼び方、嘔吐時の対応について、改めてマニュアルを確認した。生徒を対象としたものとしては、年度初めのオリエンテーション期間に大規模災害時を想定した通学地区別顔合わせを実施し、例年通り年に2回の避難訓練を実施した。

事業名　安定的な収入の確保

概要

入学試験応募者の安定的確保を目指すとともに、在校生の保護者に、基金・寄付への協力を積極的に求める。
①学校説明会・学校案内パンフレット・ホームページの充実を図る。
②中学入試・高校入試の応募者を増やすための改定を施す。
③公立中学校および塾を対象とした広報活動を充実させる。
④寄付金への協力をこれまでより積極的に呼び掛ける。

進捗状況等

学校説明会の開催、校外での説明会・相談会への参加、中学校回りや塾回りといった努力の甲斐あってか、中学への応募者は例年並み以上に集めることができた。中学入試の内容や日程の変更はしなかったが、高校の応募者を増やすために高校推薦入試と併願優遇の出願要件を緩和した。一方、入学検定料を見直し、他校と比較して低めに抑えていた中学入試検定料を値上げした。また、これまで入学時にのみ説明していた特別教育活動基金および女子部門寄付金について、４月に６学年すべての保護者会で説明し、協力を呼び掛けた。

○桐朋小学校

事業名　教育の改革と質の保証

概要

① 2020年度より創設した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語）について、研究の柱において実践、研究をすすめる。外国語に関しては、外国語科の講師と授業研究を行い、2010年度より実施している少人数（1学級を2分割した 18名）の外国語のカリキュラムを充実させる。
「地球市民の時間」では、子どもたちが世界の平和や持続可能な未来のために考え、現在と未来を地球市民として行動できるよう、根っこを育てる。中学年、高学年で、外部講師や外部機関とも共同し、授業研究を実施する。
② 2025年度、創立70周年に向けて、これまでの10年間の教育を振り返り、上記①の点も含め、新学校案内を作成する。2025年度（創立70周年）には、その実践を広く社会に周知することを推進する。

進捗状況等

① 「地球市民の時間」について、2020年以降の実践を振り返り、これまでの取り組みをまとめた。そのまとめを新学校案内の内容に反映させた。外国語に関して、実践、研究をすすめ、カリキュラムの充実をはかった。
② 2015年（創立60年）以降の教育を総括した。教育目標、目標を実現するための柱の見直し、教科教育、総合、自治の3領域の実践、研究のまとめなどを、新学校案内に反映させた。2025年度（創立70周年）には、その実践を広く社会に周知することを推進する。

事業名　将来構想

概要

2025年（創立70周年）を目安に、目指す教育と子どもの育ち、1学級の児童数、学級数、教職員数などの学校規模、財務の見通しをつなげて、将来構想を立案する。

進捗状況等

少子化、人口動態を捉え、目指す教育と子どもの育ち、学校規模、財務の見通しを検討した。また、放課後の子どもの実態と学童保育について検討をした。将来構想は、2025年度も継続して検討をすすめる。

事業名　施設･設備の拡充

概要

①　女子部門全体にわたる校舎の大規模改修計画は、2024年度内に各校舎の建築・改修の基本計画を立案し、2026年度末までに具体的なスケジュールを構築する。
②　女子部門が持っている八ヶ岳高原寮の将来構想を 2024年度内に立案、決定する。
③　ICT機器の活用を検討し、ICT環境の整備を行う。小学校においては、2023年度中に揃えた１学年分の端末を使い、2024年度中にはICT教育の実践を深める。
④　学内ネットワークシステム、Ｗｅｂサイト及び学内情報システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。
⑤　LED化や書類の電子化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むとともに、光熱水費、消耗品費等の経費削減を図る。LED化については全体の２割程度が実現し、2028年度末までに更に２割程度の実現を図る。

進捗状況等

①　大規模改修計画は、部門の財務の厳しさ、建築費用の高騰、借入の利息金利の上昇などがあり、継続して検討することとした。検討と並行して、児童の安全のため、必要な修繕をすすめることと、地球環境危機の進行で、特に猛暑への対策をすすめることを計画した。
②　八ヶ岳高原寮の将来構想に関して、2025年度継続審議し、結論を出すこととした。小学校では、これまでの八ヶ岳合宿活動を総括し、かけがえのない施設とその周辺の環境を活用しての教育活動の充実をはかった。
③　ICT環境の整備を行い、ICT教育の実践を進めた。一方、世界に目を向けると、教育のICT化からアナログへと変更する国や地域が増加している。今後もICT教育のメリット、デメリットを捉え、慎重に実践をすすめる。
④　学内ネットワークシステムについて、保守点検を実施した。
⑤　LED化をすすめ、省エネルギー化に取り組んだ。2025年度、補助金を活用し、さらにLED化、省エネルギー化をすすめる予定である。

事業名　安定的な収入の確保

概要

①　魅力ある教育と広報活動に力を入れ、応募者の増加を目指す。小学校では、初等部の強みである幼小の連携をすすめ、確実に入学者を確保し、外部むけの対面での説明会や学校体験会の充実を図る。
②　寄付金の募集拡大など、積極的な外部資金の獲得を図る。具体的には、校舎改修のスケジュールに合わせた形で2026年度末までに改修のための寄付金を創設する。

進捗状況等

①　2023年度に比べ、志願者は減少したが、安定した状況である。今後も安定した状況を維持するため、魅力ある教育を行い、広報を充実させる。
②　入学時の環境整備寄付金は目標額に達した。今後、在学生の寄付の増加を目指して取り組みをする。改修のための寄付は、見通しを立て、実施する方向で検討をすすめる。

○桐朋幼稚園

事業名　教育の改革と質の保証

概要

①　2018年度より3年保育を開始し、保育実践と研究をすすめてきた。外部講師との共同研究を継続して実施してきた。2024年度、これまでの取り組みを総括し、3年保育の実践と研究を反映させた園案内を作成する。そして、2025年度（創立70周年）には、その実践を広く社会に周知することを推進する。
②　初等部の強みである幼小連携を強化し、共生、共同の場所である畑の周辺、「しぜんひろば」での活動を充実させる。

進捗状況等

①　2018年度からはじめた3年保育を総括し、成果と課題をまとめた。2016年度より外部の研究者と共同し、実践と研究をすすめ、そのまとめを行った。これまでの実践と研究の成果をもとに、新園案内を作成した。
②　幼小連携として、しぜんひろばや畑周辺での共生、共同を進めることができた。その成果を2025年に発行する新園案内に反映させ、2025年11月に刊行予定の初等部ブックレットにまとめた。

事業名　将来構想

概要

①　2025年（創立70周年）を目安に、１学年、１クラスの子どもの数、教職員数など学校規模、財務の見通しを検討し、将来構想を立案する。
②　2022年度よりはじめた預かり保育の拡充をすすめる。2023 年度は預かり保育の子どもの数（最大14名を21名）、指導員の数（2名を3名）を増やした。2024年度は預かり保育時間を毎日 1 時間延長した。2024年度末までに早朝預かり保育、長期休み期間の預かり保育などを検討し、必要な人手を確保する。

進捗状況等

① 少子化、人口動態を捉え、目指す保育、教育と子どもの育ち、園の規模と財務見通しを検討した。2025年度も継続して検討をすすめる。
② 預かり保育は、希望者が多くおり、指導員数を増員し、安定した運営ができた。預かり保育時間の延長に伴い、補助金が増額するなど、収支で黒字が続いてきた。継続課題として、早朝預かり保育、長期休み期間の預かり保育の検討をすすめる。

事業名 施設･設備の拡充

概要

① 女子部門全体にわたる校舎の大規模改修計画は、2024年度内に各校舎の建築・改修の基本計画を立案し、2026年度末までに具体的なスケジュールを構築する。
② 学内ネットワークシステム、Ｗｅｂサイト及び学内情報システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。
③ 女子部門内各施設のLED化や書類の電子化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むとともに、光熱水費、消耗品費等の経費削減を図る。LED化については全体の２割程度が実現し、2028年度末までに更に２割程度の実現を図る。

進捗状況等

① 大規模改修計画は、部門の財務の厳しさ、建築費用の高騰、借入の利息金利の上昇などがあり、継続して検討することにした。検討と並行して、園児の安全のため、必要な修繕をすすめることと、地球環境危機の進行で、特に猛暑への対策をすすめた。
② 学内ネットワークシステムについては、適切に保守および更新を行った。
③ 女子部門内各施設等のLED化を進め、省エネルギー・省資源化に取り組むことができた。

事業名 安定的な収入の確保

概要

① 入園試験の応募者数増加を目指し、説明会を充実させ、男女ともに受験者を増加させる。小学校との連携を進め、志願者確保をすすめる。
② 入園時の環境整備寄付金の増額、在園児家庭に対して寄付金の募集拡大など積極的な資金の獲得を図る。校舎改修のスケジュールに合わせた形で2026年度末までに改修のための寄付金を創設する予定である。
③ 物品購入の集約化、外部委託の導入、LEDなど節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の削減により管理経費の健全化を図る。

進捗状況等

① 志願者数増加を目指し、説明会を充実させ、広報に力を入れた。その結果、男女ともに受験者を増加させることができた。今後、小学校との連携をさらに進め、広報を充実させ、志願者確保をすすめる。
② 入園時の環境整備寄付金の目標額に達した。今後、在園の家庭に対して寄付金の募集拡大など積極的な資金の獲得を図る。校舎改修のスケジュールに合わせた形で、改修のための寄付金を創設することを検討する
③ 物品購入の集約化、LEDなど節減効果が見込める機器の導入により、光熱水費等の削減をすすめた。

○事務局（管理運営）

事業名 安定した財務基盤の構築

概要

物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等により管理経費の健全化を図る。

学生納付金は、入学定員の確保や社会情勢、部門の収支状況等を勘案した適切な金額を設定し、安定した収入の確保に努める。

短期大学においては国･政府系機関の競争的資金(補助金)の獲得、高校以下においては東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。そのための組織体制の構築についても検討する。

進捗状況等

環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等を図るため、学内のLED化を引き続き進めた。物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化についてはある一定の水準に到達しているため、今後の研究が必要である。

短期大学の学生募集は厳しい状況が続いている。中学・高校も生徒納付金の確保が困難な状況の中、より多くの補助金や寄付金の獲得が求められるため、学園全体で引き続きそれらの獲得に努めた。私立高校授業料軽減助成金は、2024年度より年収目安の上限が撤廃され、増額となった。また、DXハイスクール補助金、防災用品整備助成金（幼・小）、木育活動支援事業費補助金（幼）について、新規に獲得することができた。

事業名　人材育成･人材活用

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、定年後の再任用職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行うとともに、外部人材の登用などの可能性も含め、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。
職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのSD（Staff Development)活動などの研修を実施する。
事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等によって効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

進捗状況等

施設設備管理業務は経理課、管財庶務及び管財窓口は総務課、行事関係は学務課、短大教学課も従前通り全体的な管財業務を担うという態勢を取った。全体的には特に大きな問題はなく機能したと考える。また、短期大学と共催のFD・SD研修会には多くの職員が参加した。
2022年度より施設設備管理業務の一部及び施設設備点検作業を外注したが、結果として効率化が図られたと考える。2023年度から総務課へICT業務を位置付けたことにより、ICTの専門知識のある派遣職員の雇用を図った。この２例のように専門性の必要な業務については外注しその機能を高めると共に、外注した結果発生するマンパワーを事務局のコア業務に注力することで、結果として業務の合理化・効率化を目指したいと考える。
また、2025年度配置を目指すとしていた財務課については、諸事情により先送りとなった。

事業名　施設設備の整備･拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。
施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。
学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

校舎改修計画の検討・立案については、全学でコンセンサスを得ることが難しく2024年度についても難航した。
セキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討している。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制について引き続き検討の必要がある。

事業名　ガバナンス体制の整備

概要

私学関連の各種法令やガイドライン等の見直しを行い、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図る。
逸脱や漏れを防ぐためのチェック体制を事務局全体で構築し、内部統制機能の充実を図る。
定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に生かされるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室と協力して対処する体制を整える。
「学校法人桐朋学園個人情報保護方針」等を遵守し、個人情報を安全かつ適正に管理・運用するとともに、Webサイト及び学内情報システムの安全性確保を徹底する。

進捗状況等

業務遂行においては、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図っている。チェック体制など内部統制機能についても都度検証・見直しを図っている。
2022年度より新規に契約した産業医を迎え、新たな衛生管理体制が構築されている。産業医への教職員の面談申し込みが多く、申し込み枠の４分の３近くが常に埋まっている状態である。
セキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討している。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制について引き続き検討の必要がある。

（４）音楽部門

①2024年度の事業の概要

音楽部門の営む各学校は社会に開かれた学校として、演奏会を中心に社会貢献を果たしております。2024年度の事業計画において演奏会を「社会とのつながり」という言葉でとらえて、事業計画を記しました。それらの演奏会の中で特に、音楽部門創設者の一人、齋藤秀雄先生の没後50年のメモリアル・コンサートは、先生の愛弟子の一人、小澤征爾先生の追悼の思いも込めた企画で、教員、卒業生の演奏家、現役の学生が世代を超えて演奏を披露し、素晴らしい音楽を創り出しました。建学の精神に謳われている「音楽教育による社会貢献」「世界における音楽文化の創造」は、部門が開催する大小の様々なかたちの演奏会を実施して行くことによってこそ、実現すると考えております。
また、音楽部門の教育内容を「音楽学」から「ミュージコロジー」へ、「編作芸術」から「Music & Sound Design（MSD）」へという方向へ変えて行こうとする挑戦は、これまで部門が脈々と続けて来た教育に新しい要素を加えようとする試みであり、小さな一歩ではあるのですが、時代のニーズにも合わせた変革とも言えましょう。

②2024年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園大学、桐朋女子高等学校音楽科

事業名　各種演奏会の開催

【概要】

４月 卒業演奏会、声楽コンサート
５月 管楽アンサンブルの夕べ、ヴィオラスペース、第110回室内楽演奏会
６月 第111回室内楽演奏会、高校・大学Student Concert、第46回作品展、第112回室内楽演奏会
７月 オーケストラ演奏会（Bオケ）、女子校オーケストラ
８月 桐朋ピアノコンペティション本選
９月 齋藤秀雄没後50年メモリアル・コンサート、佐々木成子賞受賞記念コンサート、調布市民オペラ
10月 桐朋ピアノ・ガラコンサート、大学Student Concert
11月 音大オーケストラフェスティバル
12月 第43回パーカッションの夕べ、チェロアンサンブル、ハープアンサンブルの夕べ、第34回シンフォニックウインズ、女子校オーケストラ
1月 合唱の夕べ、弦楽オーケストラ演奏会、オーケストラ演奏会（Bオケ）
3月 大学ピアノ専攻卒業演奏会、ピアノ・ガラコンサート＊、オーケストラ演奏会音大フェスティバル、團伊玖磨コンサート

【進捗状況等】

計画されていた演奏会は全て、予定通りに開催された。特に9月に開催した「齋藤秀雄没後50年メモリアル・コンサート」は、教員、卒業生の演奏家、現役の学生が世代を超えてステージに集い、素晴らしい演奏会となり、桐朋学園音楽部門の底力を示した一夜となった。このメモリアル・コンサートを契機に、「学校法人桐朋学園音楽部門 齋藤秀雄記念教育基金」を設立した。

○桐朋学園大学院大学

事業名　各種演奏会の開催

【概要】

５月 コンチェルト実習コンサート（オーケストラ・アカデミー合同）
６月 重奏研究コンサート（2日）
10月 協奏曲のひととき（オーケストラ・アカデミー合同）
12月 重奏研究コンサート（2日）
３月 修士リサイタル（2日）

【進捗状況等】

計画されていた演奏会は全て、予定通りに開催された。

○オーケストラ・アカデミー

事業名　各種演奏会の開催

【概要】

４月 第68回定期演奏会
５月 コンチェルト実習コンサート
６月 第69回定期演奏会
９月 特別演奏会
10月 協奏曲のひととき
11月 第52回室内楽定期演奏会、特別演奏会

【進捗状況等】

計画されていた演奏会は全て、予定通りに開催された。定期演奏会、特別演奏会はオーバード・ホールに1000人以上の観客を集める盛況ぶりであった。地域出向演奏会、保育所出向演奏会、ウィークエンドコンサートなども計画通りに実施した。

○富山キャンパス（大学院大学、オーケストラ・アカデミー）

事業名　地域貢献活動

【概要】

地域出向演奏会、保育所出向演奏会、街角クラシックなどの演奏活動によって、地域の人々にクラシック音楽を身近なものと感じてもらえるような演奏活動
大学院大学の音楽教育力を広く市民に還元する公開講座

【進捗状況等】

街角クラシック（3回）、富山市役所ミニコンサート（1回）、保育所出向演奏（1ヶ所）、小学校出向演奏（1校）、福祉施設出向演奏（1ヶ所）
公開講座：「西洋音楽概論」（全8回）受講者数121人（延べ数）、「特別企画講座」（全2回）受講者数18人（延べ数）

○桐朋学園大学（学部・大学院）

事業名　教育内容の変更

【概要】

ミュージコロジー専攻、編作芸術など、カリキュラム検討
授業内容の見直し

【進捗状況等】

36科目に関して、科目名の改定を行った。新しい科目の主なものは「共同制作・卒業作品」「アート・マネジメント実習」「MSD演習」「Mu実技」などである。
「編作コース」の大幅な内容変更を実施。映像（舞台やアニメ）に音楽および効果音（サウンドデザイン）をつけるのであるが、制作にあたってはお互いのコミュニケーションを通して進める「共同制作」がポイントとなる。よって、カリキュラムの目玉として、毎年制作する「共同制作」、効果音の制作である「サウンドデザイン」、生演奏を含めた録音「レコーディングPA」等が学べるカリキュラムを構築した。共同制作の映像としては、舞台では短大のダンスとミュージカル、アニメでは武蔵野美術大学のアニメーション専攻との協力体制も整備した。
専攻名を「音楽学」から「ミュージコロジー」へと変更した。より幅広い「音楽」に関わるさまざまな分野を扱うカリキュラム変更をした。卒後の社会での活動を視野に入れた「アート・マネジメント」、語学力も鍛える「英語での授業」、ロックやポップスなどクラシック以外のジャンルも扱うことができる講座を用意した。それに伴い、入試においては、ソルフェージュまたは楽器演奏のどちらかを選択する方法へと変更した。

キャリア支援を望む学生アンケート結果を踏まえ、教育課程内でのキャリア支援として、一般教養科目に「キャリア・デザイン」を開講した。

○桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

事業名　在籍者の把握

【概要】

在籍者のリアルタイムでの把握

【進捗状況等】

月毎に動きのある在籍者をリアルタイムで把握するためのデータベースは作り上げることができなかった。

事業名　運営の安定

【概要】

音楽教室全体の収支の改善

【進捗状況等】

音楽教室全体としては黒字が800万円弱にとどまった。音楽部門全体の学生生徒納付金における音楽教室生徒の校納金はおよそ３割であり、収支の改善をはかる必要がある。

○短期大学関連

事業名　桐朋学園芸術短期大学との連携強化

【概要】

桐朋学園芸術短期大学の演劇学部構想

【進捗状況等】

短期大学演劇専攻の学部化（4大化）に関して、協議を進めるためにワーキンググループ（それぞれ５名ずつ出席）を作り、検討を重ねた。演劇学部（仮称）の運営に関しては、両部門間で調整が必要と認識された。

○教務関連

事業名　教務の電算化

【概要】

教務関連の業務を電算化して、業務の効率を向上する。

【進捗状況等】

教員からの科目の成績報告、学生の事項科目の履修登録がオンラインで可能となった。

○図書館関連

事業名　システム･リプレイス

【概要】

新しい図書システムの導入

【進捗状況等】

無事に導入が終了し、より経済的で使い勝手の良いシステムとなった。小さな不具合が起こることは想定されており、実際に使いながら修正をして行く。

○その他

事業名　ホームページリニューアル

【概要】

ホームページの大幅な変更

【進捗状況等】

大手広告代理店に依頼して、ホームページの大幅なリニューアルを行った。ブランディング作業を通じて、新しいタグラインおよびそのステートメントを策定し、それを基にホームページのリニューアルを進め2025年4月から運用を始めた。ホームページに関しても、今後、ユーザーからの声を反映して、より使い勝手の良いものに修正して行く。

事業名　外部資金の確保

【概要】

補助金、寄付金等、外部資金の確保

【進捗状況等】

個人（卒業生）から５千万円もの大口の寄付金を頂いた。また、９月のメモリアル・コンサートでは民間企業等からの協賛金を得ることができた。

4　その他

（１）施設設備

①男子部門

○ 中高　体育館照明改修工事

・工事概要　省エネ及び2027年蛍光灯製造中止への対策として、LED照明に交換した。
・工事費用　6,116,000円
・施工業者　株式会社エコ・プラン
・工事期間　2024年7月3日～7月9日

○ 小　照明改修工事

・工事概要　省エネ及び2027年蛍光灯製造中止への対策として、LED照明に交換した。
・工事費用　5,423,000円
・施工業者　株式会社エコ・プラン
・工事期間　2024年7月16日～7月19日

○ 電子黒板導入(中学1年生の普通教室6クラス分)

・工事概要　既存の学習活動を超えた学びを行うため導入した。
・工事費用　3,489,200円
・施工業者　株式会社映像システム
・工事期間　2024年5月22日

○ 無線LANアクセスポイント設置(中学普通教室他)

・工事概要　ICT端末を学習端末として利用できるよう無線LANアクセスポイントを設置した。
・工事費用　6,640,700円
・施工業者　ウチダエスコ株式会社
・工事期間　2024年7月7日～7月17日

②女子部門

○ 加圧給水ユニット整備工事

・工事概要　北館地下機械室にある加圧給水ユニット3台の内、1台から漏水が発見され、また前回の更新より年月が経っていることから、3台全ての整備工事を実施した。
・工事費用　1,870,000円
・施工業者　大和ライフネクスト株式会社
・工事期間　2024年8月19日

○ 保存樹木剪定作業

・工事概要　管財課棟～東別館付近の保存樹木5本について、剪定を実施した。
・工事費用　1,595,000円
・施工業者　大和ライフネクスト株式会社
・工事期間　2025年1月6日～1月8日

③音楽部門

○ 仙川キャンパスアネックス給湯器設備更新工事

・工事概要　給湯器設備が故障したため、取替更新を行った。
・工事費用　221,540円
・施工業者　株式会社日本イトミック
・工事期間　2024年8月14日

（２）学費及び補助金等

①男子部門

学費

（単位:円）

学校名＼項目	入学金	進学料	授業料（月額）	施設拡充費（月額）	生徒諸費（月額）	入学検定料
桐朋高等学校	300,000	230,000	40,200	11,350	3,500	25,000
桐朋中学校	300,000		41,200	11,350	3,500	25,000 ＊
桐朋学園小学校	300,000		41,200	11,350	3,500	25,000

＊第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校	363,000,300
	桐朋中学校	245,135,700
	桐朋学園小学校	130,095,500
私立高校等授業料軽減助成金		342,294,700
結核予防費都費補助金		105,585
都内生就学促進補助金		1,082,100
就学支援金学校事務費補助金		1,164,000
外国語指導助手活用事業費助成金		9,604,454
デジタル教育環境整備費助成金(中・高)		4,730,000
省エネ設備等導入事業費助成金(小・中・高)		7,691,000
外部検定試験料助成金		960,000
災害時対応環境整備費助成金(小・中・高)		1,551,000
ICTタブレット新入生端末整備費助成金		4,215,000
	計	1,111,629,339

学園債　2024年4月～2025年3月までの受入額

桐朋高等学校	3,200,000
桐朋中学校	53,400,000
桐朋学園小学校	15,500,000
計	72,100,000

②女子部門

学費

（単位:円）

学校名			入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	音楽専攻	420,000	170,000	1,132,000	80,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	330,000	170,000	1,007,000	70,000	32,000	120,000	35,000
	専攻科	音楽専攻	10,000	——	1,017,000	70,000	32,000	45,000	35,000
		演劇専攻	10,000	——	1,007,000	70,000	32,000	130,000	35,000

学校名	入学金 / 進学手続料	施設拡充費	授業料（月額）	施設維持費（月額）	生徒児童諸料（月額）	教育充実費（年額）	入学検定料
桐朋女子高等学校	230,000 / 100,000	100,000	44,700	12,500	24,000	——	23,000
桐朋女子中学校	270,000	100,000	44,700	12,500	24,000	——	25,000
桐朋小学校	300,000	100,000	52,100	11,500	24,000	24,000	25,000
桐朋幼稚園	300,000	——	49,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金	
桐朋学園芸術短期大学	24,251,000
東京都経常費補助金	
桐朋女子高等学校	309,823,000
桐朋女子中学校	182,506,300
桐朋小学校	114,270,600
桐朋幼稚園	14,486,000
授業料等減免費交付金（短）国庫	12,528,300
結核予防費都費補助金（短・高）	82,310
私立高校授業料軽減助成金（高）	175,053,900
都内生就学促進補助金（高）	447,000
就学支援金学校事務費補助金（高）	645,000
外部検定試験料助成（高）	2,783,000
新入生端末整備費助成金（高）	2,025,000
私立幼稚園預かり保育推進補助金（幼）	1,240,000
DXハイスクール補助金	7,340,000
防災用品整備助成金（幼・小）	507,000
木育活動支援事業費補助金（幼）	193,659
私立幼稚園教職員研修費補助金（幼）	50,000
調布市事業者物価高騰支援事業費補助金	280,000
調布市物価高騰対策補助金（幼）	345,114
私立幼稚園事務取扱補助金（幼）	120,000
保存樹木せん定補助金	200,200
緑の補助金	249,700
計	849,427,083

教育環境整備寄付金　2024年4月～2025年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	1,300,000
桐朋女子中学校	9,300,000
桐朋小学校	14,200,000
桐朋幼稚園	6,000,000
計	30,800,000

③音楽部門

学費

（単位:円）

項目 / 学校名	入学金	運営維持費	授業料	施設設備費（施設拡充費）	学生生徒諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	50,000（本学卒業） 250,000（他大学卒業）	100,000	1,200,000	200,000	—	30,000
桐朋学園大学	500,000	300,000（各年次）	1,360,000	390,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部研究生	320,000（外部のみ）	—	450,000	100,000（外部生） 70,000（内部生）	—	55,000（新規外部） 5,000（内部･継続外部）
桐朋学園大学音楽学部ソリスト･ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部カレッジ･ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校音楽科	200,000（外部生） 100,000（※）	300,000（各年次）	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ･アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

※ 桐朋中学校及び桐朋女子中学校卒業

補助金

国庫補助金

一般補助(大学院大学)	5,772,000
一般補助(大学)	54,811,000
特別補助(大学) 　大学院等の機能の高度化	2,449,000
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)	28,470,400
計	91,502,400

東京都補助金

一般補助(高校)	69,737,900
特別補助(高校)	7,280,700
都内生就学促進補助(高校)	344,400
結核予防費補助(高校)	17,541
結核予防費補助(大学)	37,444
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	33,259,600
就学支援金学校事務費補助(高校)	530,000
計	111,207,585

調布市補助金

調布市保存樹木等せん定補助金	200,200
調布市市内事業者物価高騰支援事業費補助金	20,000
計	220,200

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ･アカデミー)	20,000,000
計	235,000,000

（３）入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般　約50名	255	252	111	39
	内部　－	273	269	273	273
	計	528	521	384	312
中学校	一般　第1回　約120名	402	373	148	132
	一般　第2回　約60名	640	509	234	68
	内部　－	68	68	68	68
	計	1110	950	450	268
小学校	男子 72名	456	400	54	34
	女子	214	170	67	34
	計	670	570	121	68

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学　　（　　）男子内数

			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科音楽専攻	総合型A	Ⅰ期	30	12	12	12	12 (3)
		Ⅱ期		3	3	3	3 (1)
		Ⅲ期		4	4	4	4 (1)
		Ⅳ期		10	10	10	10 (1)
	総合型B	Ⅰ期		0	0	0	0 (0)
		Ⅱ期		0	0	0	0 (0)
		Ⅲ期		1	1	1	1 (0)
	社会人	Ⅰ期		2	2	2	1 (1)
		Ⅱ期		0	0	0	0 (0)
		Ⅲ期		2	1	1	1 (0)
	学校推薦型		10	1	1	1	1 (0)
	一般	A方式	10	0	0	0	0 (0)
		B方式		2	2	2	2 (0)
	計		50	37	36	36	35 (7)
専修別内訳	芸術科音楽専攻	ピアノ	—	14	14	14	13
		声楽	—	7	6	6	6
		フルート	—	4	4	4	4
		クラリネット	—	5	5	5	5
		トロンボーン	—	1	1	1	1
		テューバ	—	1	1	1	1
		ヴァイオリン	—	4	4	4	4
		チェロ	—	1	1	1	1
	計			37	36	36	35
演劇専攻科	総合型A	Ⅰ期	40	24	24	24	23 (5)
		Ⅱ期		18	17	17	16 (2)
	総合型B			11	11	11	11 (2)
	学校推薦型		20	8	8	8	8 (1)
	一般		10	12	7	6	5 (2)
	計		70	73	67	66	63 (12)
	芸術科　計		120	110	103	102	98 (19)

			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
専攻科	演劇専攻		20	20	20	20	20 (3)
	音楽専攻	内部	20	13	13	13	12 (4)
		外部		0	0	0	0 (0)
	計		40	33	33	33	32 (7)

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校（普）	推薦	約15	14	14	14	14
	帰国生	約20	5	4	4	1
	一般	約50	25	25	21	12
	内部進学	—	—	—	—	133
	計	—	44	43	39	160
中学校	一般(A入試)	約130	124	117	99	78
	Creative English	約10	4	4	4	1
	論理的思考力＆発想力入試	約40	52	30	22	10
	一般(B入試)　2科	約40	98	41	26	6
	4科		82	45	40	16
	帰国生	約20	7	7	7	4
	計	約240	367	244	198	115
	内部進学	—	60	60	60	60
	計	—	427	304	258	175
小学校	男子	47	336	267	33	24
	女子		164	119	44	24
	計	47	500	386	77	48
	内部進学	—	24	24	24	24
	計	—	524	410	101	72
幼稚園	男子	26	49	48	13	13
	女子		24	22	16	12
	計	26	73	70	29	25

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学校・学部名等			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科						
	修士課程		45	62	60	54	54
	修士課程	外国人留学生	若干名	22	22	14	10
	博士後期課程		3	9	9	3	3
		小計	48	93	91	71	67
	音楽学部						
	音楽学科	一般	40	55	53	50	31
		指定校推薦一種	15	17	17	17	17
		指定校推薦二種	50	46	46	46	45
		総合型入試	25	36	36	36	36
		外国人留学生	若干名	4	4	4	2
		特待生	若干名	7	7	4	4
		飛び入学	若干名	0	0	0	0
		小計	130	165	163	157	135
		編入学	若干名	5	4	3	3
		特別転入学	若干名	0	0	0	0
桐朋女子高等学校	音楽科	一般	90	51	50	49	47
		一般推薦	10	10	10	9	9
		小計		61	60	58	56
ディプロマ・コース	ソリスト	新規	――	6	6	6	6
		継続	――	18	18	18	18
	カレッジ	新規	――	39	39	39	36
		継続	――	32	32	32	31
		小計		95	95	95	91
研究生	[1]		――	14	14	14	13
	[2]	継続	――	24	24	24	23
	[3]		――	8	8	5	5
		小計		46	46	43	41
科目等履修生				10	10	10	10
		計		475	469	437	403

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻						
	修士課程	特待生	――	0	0	0	0
		一般	10	6	6	6	5
		小計		6	6	6	5
科目等履修生				3	3	3	3
桐朋オーケストラ・アカデミー			――	163	159	28	27
		計		172	168	37	35

（４）教職員研究研修

①男子部門

所属	氏　名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
小学校	有馬　佑介	「学校が学校であるために―コロナ禍と宿泊行事」	『生活教育』878号	2024年4月1日

①女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	個人・共同	氏名（代表者）	研　究　課　題
短大部	個　人	高橋　宏幸	これからの大学図書館の運営について、司書資格を通信教育で学ぶ課程のなかで得る
中高部	個　人	吉崎　亜由美	生徒の社会参画に向けたプロジェクト学習の学びのデザインと自己変容
初等部	個　人	束原　和郎	よりよい教育評価の探求

所属	氏　名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋　宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー356 ディミトリス・パパイオアヌー『Ink』 永井愛『パートタイマー秋子』 ほろびて『センの夢見る』	テアトロ	2024年4月
		「ペペペの会」のおもしろさ	テアトロ	2024年5月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー358 ACO沖縄『密航者～波濤をこえて』 ルサンチカ『更地』 ブルーエゴナク『波間』	テアトロ	2024年6月
		ドラマの前線として―『ケエツブロウよ　伊藤野枝ただいま帰省中』	テアトロ	2024年8月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー360 小松台東『デンギョー』 中野成樹＋フランケンズ『ちがう形』 シャウビューネ『かもめ』	テアトロ	2024年8月
		書評『アンチダンス』	図書新聞	2024年8月31日
		唐十郎の異郷の身体	Theatre Communication Magazine (32)	2024年9月30日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー362 『赤ずきん』(ラ・ルーナ・ネル・レット・カンパニー、りっかりっかフェスタより) 『正三角関係』NODA・MAP 『神話、夜の果ての』シリアルナンバー	テアトロ	2024年10月
		暗い時代の一人として―MODE『さようなら、シュルツ先生』	図書新聞	2024年11月23日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー364 『ミネムラさん』(劇壇ガルバ) 『失敗の研究―ノモンハン1939』(青年劇場) 『リビングルームのメタモルフォーシス』(岡田利規)	テアトロ	2024年12月
		演劇書回顧（2024年）	週刊読書人	2024年12月20日
		書評『唐十郎 襲来！』	週刊読書人	2025年1月24日
		「歴史の終わりが示す、新たな歴史の鼓動」 2024年演劇回顧	図書新聞	2025年1月25日
		演劇批評家として―鴻英良という人としごと	週刊読書人	2025年1月31日

所属	氏　名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋　宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー366 『害悪』(果てとチーク) 『太鼓たたいて笛吹いて』(こまつ座) 『Corps extremes 身体の極限で』(ラシッド・ウランダン))	テアトロ	2025年2月
		浦賀から日本なるものを考えるベスト、国立の劇場から日本なるものを憂うワースト	テアトロ	2025年3月
		20世紀のほとりにて──鴻英良への弔鐘	Theater Communication Magazine (32)	2025年3月31日
	杉山　弘 河野　孝 高橋　宏幸 丸田　慎吾 林　あまり	総括座談会 2024年の日本の演劇界「100年後の演劇は……」	テアトロ	2025年2月
中高部	内藤　芳宏	地理教育研究会編「地理で読み解く現代世界」	古今書院	2025年3月15日
	岡野屋宏一	〔作品出展〕		
		第17回 許我篆書展　「刻狸」	古河市・篆刻美術館	2024年4月27日
		第75回毎日書道展　「湖」	国立新美術館	2024年7月10日
		第13回玄潮会秋季書展 「新秋」	ｾﾝﾄﾗﾙﾐｭｰｼﾞｱﾑ銀座	2024年8月28日
		第57回玄潮会書展 「ああ」	東京都美術館	2025年2月13日

②音楽部門

「桐朋学園大学研究紀要」第49集

◎論文

大学	沼野　雄司	武満徹の創作における、映画音楽と芸術音楽の相互浸透
	安田　和信	J.ハーフェネーダーのヴァイオリン協奏曲の現存資料をめぐって ――作品復興の現状と課題――
	上尾　信也	声の復権 ――中世ヨーロッパにおけるナラティヴの記譜と流布――
	西原　　稔	ヴァイマル体制下のクラウス・プリングスハイムの音楽批評 ――Die WeltbühneとVorwärtsへの寄稿批評についての考察――

◎研究ノート

大学	杵鞭　広美	特別支援教育のニーズに対応できる音楽科の教員養成について考える(2) 多様なニーズに対応できる教育者の養成にむけて
	増野　亜子	コロナ下パリにおける音楽家の活動と経験 ――6人の音楽家のインタビューから――

Ⅲ　財務の概要

１　決算の概要

（１）貸借対照表関係

ア）貸借対照表の状況と経年比較

（単位：百万円）

科　　目	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末
固定資産	24,924	24,214	23,972	23,266	22,519
有形固定資産	20,343	19,396	18,903	18,240	17,574
土地	1,541	1,397	1,397	1,397	1,397
建物	15,194	14,517	14,051	13,530	12,940
構築物	851	791	737	690	638
教育研究用機器備品	994	913	928	835	805
管理用機器備品	91	79	73	63	53
図書	1,672	1,698	1,717	1,726	1,742
建設仮勘定	0	0	0	0	0
特定資産	3,991	4,179	4,188	4,144	4,066
その他の固定資産	589	639	881	882	879
流動資産	3,781	4,243	4,077	4,003	3,823
現金預金	3,014	3,724	3,535	3,449	3,180
その他の流動資産	767	520	542	554	643
資産の部合計	28,705	28,457	28,049	27,269	26,342
固定負債	5,002	4,847	4,654	4,362	4,050
長期借入金	2,254	2,076	1,897	1,720	1,542
退職給与引当金	2,409	2,451	2,419	2,311	2,183
その他の固定負債	339	319	337	330	325
流動負債	1,773	1,810	1,692	1,593	1,610
短期借入金	178	178	179	178	178
前受金	956	962	896	783	816
その他の流動負債	639	671	618	632	617
負債の部合計	6,775	6,657	6,346	5,954	5,660
基本金	31,181	31,041	31,473	31,756	31,997
第１号基本金	30,116	29,976	30,408	30,691	30,932
第３号基本金	423	423	423	423	423
第４号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314
翌年度繰越収支差額	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314
純資産の部合計	21,930	21,800	21,703	21,315	20,683
負債及び純資産の部合計	28,705	28,457	28,049	27,269	26,342

イ）財務比率の経年比較

（単位：%）

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 / 事業活動支出	-32.8	-20.8	-18.2	-12.6	-11.8
		(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	
流動比率	流動資産 / 流動負債	213.2	234.3	240.9	251.3	237.4
		(249.7)	(260.2)	(263.8)	(261.0)	
総負債比率	総負債 / 総資産	23.6	23.3	22.6	21.8	21.4
		(14.4)	(14.2)	(14.0)	(13.9)	
前受金保有率	現金預金 / 前受金	315.2	387.2	394.7	440.6	389.9
		(390.0)	(416.6)	(424.2)	(433.2)	
積立率	運用資産 / 要積立額	49.3	52.9	49.6	46.9	45.2
		(72.0)	(73.1)	(73.4)	(71.9)	

※(　)の比率:令和6年度版『今日の私学財政　大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

（２）事業活動収支計算書関係

ア）事業活動収支計算書の状況と経年比較

（単位：百万円）

科　　目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	5,933	6,009	5,967	5,845	5,203
	手数料	96	99	103	98	105
	寄付金	85	68	54	81	113
	経常費等補助金	1,816	1,861	1,838	1,819	2,346
	付随事業収入	△ 15	10	7	7	8
	雑収入	100	153	217	91	185
	収入計	8,015	8,199	8,186	7,942	7,959
	人件費	5,400	5,553	5,625	5,467	5,757
	教育研究経費	2,480	2,463	2,405	2,486	2,452
	うち減価償却額	694	845	742	747	724
	管理経費	411	478	427	439	469
	うち減価償却額	78	107	76	77	79
	徴収不能額等	3	3	1	0	0
	支出計	8,294	8,497	8,458	8,392	8,678
	収支差額	△ 279	△ 298	△ 272	△ 450	△ 719
教育活動外収支	受取利息・配当金	16	14	22	16	19
	その他の教育活動外収入	0	0	0	25	0
	収入計	16	14	22	41	19
	借入金等利息	12	11	10	10	9
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	支出計	12	11	10	10	9
	収支差額	4	3	12	32	11
経常収支差額		△ 276	△ 295	△ 260	△ 419	△ 708
特別収支	資産売却差額	20	131	0	0	0
	その他の特別収入	990	52	180	83	86
	収入計	1,010	184	180	83	86
	資産処分差額	16	16	14	18	8
	その他の特別支出	26	2	3	34	1
	支出計	42	18	18	52	10
	収支差額	968	165	162	31	76
基本金組入前当年度収支差額		692	△ 130	△ 98	△ 388	△ 632
（事業活動収支差額比率）		(7.64%)	(△1.55%)	(△1.16%)	(△4.81%)	(△7.84%)
基本金組入額合計		△ 1,006	△ 260	△ 432	△ 283	△ 255
当年度収支差額		△ 314	△ 390	△ 529	△ 671	△ 887
前年度繰越収支差額		△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442
基本金取崩額		0	400	0	0	15
翌年度繰越収支差額		△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442	△ 11,314
（参考）						
事業活動収入計		9,056	8,397	8,388	8,066	8,065
事業活動支出計		8,364	8,527	8,486	8,453	8,697

イ）財務比率の経年比較

人件費比率	人件費 / 経常収入	67.2	67.6	68.5	68.4	72.1
		(47.5)	(46.3)	(46.1)	(46.5)	
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	30.8	29.9	29.3	31.1	30.7
		(40.8)	(40.4)	(42.2)	(43.7)	
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	5.1	5.8	5.2	5.4	5.8
		(6.4)	(6.4)	(6.7)	(6.9)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	7.6	-1.5	-1.1	-4.8	-7.8
		(5.5)	(7.2)	(5.0)	(3.8)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	73.8	73.1	72.6	73.2	65.2
		(50.3)	(48.7)	(48.7)	(48.7)	
経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	-3.4	-3.5	-3.1	-5.2	-8.8
		(5.0)	(6.6)	(4.7)	(2.7)	

※（ ）の比率：令和6年度版『今日の私学財政　大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

（３）資金収支計算書関係

ア）資金収支計算書の状況と経年比較

（単位：百万円）

科　　目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入	学生生徒等納付金収入	5,933	6,009	5,967	5,845	5,203
	手数料収入	96	99	103	98	105
	寄付金収入	891	69	54	81	112
	補助金収入	1,992	1,908	1,908	1,897	2,379
	資産売却収入	200	350	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	0	11	5	7	6
	受取利息・配当金収入	18	17	25	19	22
	雑収入	269	224	287	321	392
	借入金等収入	62	66	86	73	72
	前受金収入	956	962	896	783	816
	その他の収入	1,057	1,188	1,040	1,085	1,122
	資金収入調整勘定	△ 1,659	△ 1,409	△ 1,443	△ 1,383	△ 1,365
	前年度繰越支払資金	2,676	3,014	3,724	3,535	3,449
	収入の部合計	12,491	12,507	12,651	12,360	12,314
支出	人件費支出	5,682	5,582	5,726	5,779	6,092
	教育研究経費支出	1,786	1,618	1,663	1,739	1,729
	管理経費支出	374	373	354	396	391
	借入金等利息支出	12	11	10	10	9
	借入金等返済支出	251	239	264	244	263
	施設関係支出	708	71	136	86	11
	設備関係支出	226	119	133	97	82
	資産運用支出	125	323	340	158	147
	その他の支出	481	643	655	596	597
	資金支出調整勘定	△ 168	△ 195	△ 165	△ 195	△ 187
	翌年度繰越支払資金	3,014	3,724	3,535	3,449	3,180
	支出の部合計	12,491	12,507	12,651	12,360	12,314

イ）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科　　目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,179	8,272	8,252	8,146	8,164
教育活動資金支出計	7,801	7,571	7,740	7,880	8,210
差引	378	701	512	265	△ 47
調整勘定等	△ 119	84	△ 130	△ 94	△ 67
Ａ 教育活動資金収支差額	259	785	381	171	△ 114
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	983	348	77	139	53
施設整備等活動資金支出計	1,040	390	320	333	195
差引	△ 57	△ 42	△ 242	△ 194	△ 142
調整勘定等	△ 85	163	△ 0	△ 0	△ 3
Ｂ 施設整備等活動資金収支差額	△ 142	121	△ 243	△ 194	△ 145
小計（Ａ＋Ｂ）	118	906	139	△ 23	△ 259
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	839	659	697	660	710
その他の活動資金支出計	619	858	1,024	721	720
差引	220	△ 198	△ 328	△ 61	△ 10
調整勘定等	1	2	0	△ 1	1
Ｃ その他の活動資金収支差額	220	△ 197	△ 327	△ 63	△ 9
支払資金の増減額（小計＋C）	338	710	△ 189	△ 86	△ 269
前年度繰越支払資金	2,676	3,014	3,724	3,535	3,449
翌年度繰越支払資金	3,014	3,724	3,535	3,449	3,180

ウ）財務比率の経年比較

教育活動資金収支差額比率

教育活動資金収支差額	3.17	9.48	4.61	2.10	-1.39
教育活動収入	(13.0)	(14.6)	(12.0)	(11.4)	

※( )の比率：令和6年度版『今日の私学財政　大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

２　その他

（１）資産運用の状況

・ 運用目的　教育及び研究事業の支援並びに学生生活の支援（奨学金含む）、若手音楽家の顕彰助成事業費への充当

・ 運用方針及び運用対象　資産運用は、恒常的な資金保有計画及び支払計画に支障のない範囲で、安全かつ有利を基本として行い、運用対象は、元本が保証されている安全な有価証券及び預貯金等

・ 運用に関するガバナンス体制　経理担当者の起案を予算会議で検討した上で、経理責任者たる各部門の選出理事若しくは理事長が決裁。予決算の審議を行う理事会において状況報告を行い、理事会のチェックを受ける。

・ 本年度の運用概況　預貯金以外の運用概況については、下記の通り。

（単位：千円）

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	64,602	49,813	特定資産(江戸奨学引当特定資産)
債券	国債	1口	12,231	12,279	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	30,565	30,697	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	102,080	102,519	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	103,139	103,344	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	21,770	有価証券
債券	国債	1口	49,956	49,310	有価証券
債券	国債	1口	204,293	204,980	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,353	19,514	有価証券
債券	国債	1口	49,563	35,180	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	103,639	99,590	有価証券
債券	大阪市公債	1口	101,973	96,540	有価証券
債券	東京都債	2口	200,000	192,210	施設設備引当特定資産
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	日本製鉄(株)	1650口	896	5,272	有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811	1,675	有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	1口	100	100	有価証券
		計	1,065,951	1,024,791	

（２）学校債の状況

（単位：千円）

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限
2019年度	61,500	0.00%	2026年3月
2020年度	74,500	0.00%	2027年3月
2021年度	64,100	0.00%	2028年3月
2022年度	67,500	0.00%	2029年3月
2023年度	52,400	0.00%	2030年3月
2024年度	69,000	0.00%	2031年3月
計	389,000		

（３）寄付金の状況

（単位：千円）

種類	金額	使用実績等
男子部門		
桐朋奨学会基金への寄付	4,240	入学決定後の家計状況急変により就学困難となったご家庭の支援に使用(2024年度適用者9名)
緑と文化の基金への寄付	2,222	学年主催の文化行事への補助(講演会等)、校内緑化、植樹、みや林再生資金の一部、子どもたちの「夢」を育む企画等への補助に使用
一般寄付	2,100	男子部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(図書他)	825	
女子部門		
奨学会への寄付	1,025	在学中に経済的困窮となった学生、生徒、児童に給付
生徒特別教育活動基金への寄付	1,200	部活動での遠征など、生徒の教育活動を支援するために使用
帰国子女教育活動基金への寄付	460	帰国生に対する補習講座費及び帰国生教育の研究に充当
一般寄付	36,964	女子部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(大時計、プロジェクター、図書)	636	
音楽部門		
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	2,800	次世代の音楽界を担うことが期待される学生・生徒に給付
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	6,000	入試成績優秀者かつ経済的に困難な大学院生に給付
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	90	演奏環境の充実のため楽器や設備を導入
若手音楽家支援プロジェクト寄付金 （若手音楽家支援プロジェクト）	140	宗次ホールを借りた桐朋生以外の学生・若手音楽家に関係経費を負担
若手音楽家支援プロジェクト寄付金(学業支援プロジェクト)	50	現役桐朋生を経済的に支援するために使用
若手音楽家支援プロジェクト寄付金(建築プロジェクト)	100	宗次ホールの諸整備、練習棟の建築に充当
特別奨学基金寄付金	3,700	学業成績の特に秀でた学生・生徒を顕彰するための奨学金として使用
齋藤秀雄記念教育基金寄付金	30,050	音楽部門の運営、演奏環境の充実のために使用
一般寄付	21,200	音楽部門所管学校の教育・運営に充当
現物寄付(楽器)	50,583	
現物寄付(図書)	547	
計	164,932	

（４）補助金の状況

ア）部門別交付額の推移

（単位：千円）

部門・学校＼年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
男子部門	桐朋高等学校	396,386	412,594	428,153	437,096	721,323
	桐朋中学校	233,071	237,322	258,634	252,589	256,164
	桐朋学園小学校	118,393	122,218	125,673	134,422	134,143
	計	747,850	772,134	812,460	824,107	1,111,629
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	72,555	64,395	53,969	50,279	37,159
	桐朋女子高等学校（普通科）	325,883	338,059	339,095	328,972	498,384
	桐朋女子中学校	172,445	185,135	185,485	177,145	182,716
	桐朋小学校	104,210	102,210	107,798	112,069	114,884
	桐朋幼稚園	12,680	13,973	13,769	15,268	16,542
	計	687,774	703,772	700,115	683,733	849,685
音楽部門	桐朋学園大学院大学	130,382	126,332	126,555	111,920	112,096
	桐朋学園大学大学院	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	266,166	128,543	94,759	97,701	85,924
	桐朋女子高等学校（音楽科）	71,365	76,055	75,033	76,721	111,234
	子供のための音楽教室	0	0	0	0	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	88,319	100,995	99,299	103,080	108,676
	計	556,232	431,926	395,646	389,422	417,930
法人合計		1,991,855	1,907,832	1,908,221	1,897,262	2,379,245

イ）種類別交付額の推移

（単位：千円）

補助金の種類＼年度			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
国庫補助金	経常費補助金	私立大学等 一般補助	155,800	162,564	116,179	97,156	85,034
		私立大学等 特別補助	4,136	4,310	1,938	2,072	2,249
		計	159,936	166,874	118,117	99,228	87,283
	その他（修学支援新制度授業料減免）		196,410	39,631	43,052	49,392	41,257
	計		356,346	206,505	161,169	148,620	128,540
地方公共団体補助金	経常費補助金	東京都 一般補助	1,278,316	1,288,124	1,297,174	1,329,105	1,380,344
		東京都 特別補助	54,444	59,551	55,508	54,897	55,992
		計	1,332,760	1,347,675	1,352,682	1,384,003	1,436,336
	私立高等学校授業料軽減補助金		67,738	80,617	77,250	64,882	550,608
	結核予防費都費補助金		273	261	263	265	243
	私立高等学校都内生就学促進補助金		2,010	1,617	1,805	2,029	1,874
	富山市補助金		205,746	215,000	215,000	215,000	215,000
	その他		26,983	56,156	100,052	82,463	46,644
	計		1,635,510	1,701,326	1,747,052	1,748,642	2,250,705
法人合計			1,991,855	1,907,831	1,908,221	1,897,262	2,379,245

３　経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

（１）男子部門

学校運営上の大きな課題として少子化への対策がある。小学校では2025年度よりクラス定員減を始め、1クラス2名の減を実施する。中学・高校ではそれぞれ2026年度、2029年度から定員減（小学校同様1クラス2名減）を実施することを既に決定している。これに続き、小中高においてそれぞれ2028年度、2032年度、2035年度を目途にさらに1クラスの定員を2名減らす方針を持っている。定員減完成時には現行よりおよそ1割の児童・生徒数の減となる。これまで以上に行き届いた指導・教育活動を目指していきたい。

財務上の基盤はまず児童・生徒数の確保にあるが、そのために学校生活の入口にあたる入学試験について改善を進める。2025年度受験の出願者数は小中高ともに微増であったが過去5年間の推移を見ると必ずしも安定的な増とは言えない。そこで桐朋高等学校では、2026年度より入学金の延納制度、補欠合格の発表を導入することで中学生が受験しやすい環境を整える。なお、近年の高校授業料の実質無償化、東京都の私立中学生への授業料支援策等の動向には十分注意を払い、これらの政策が本校の受験者数にどう影響を及ぼすかを見極めていく。一方、広報活動を通して本校の魅力を十全に伝えるための工夫も加えていく。その際には民間シンクタンクによる校風調査等も参考にしながら、本校での取り組みがどう社会で評価されているかという視点をも取り入れていく。また2024年度は新学習指導要領完成の年度であり、新教育課程が生徒の学力にどのような変化をもたらしたかについて検証を進める。そして最後、学校生活の出口にあたる進路指導について、児童・生徒が個々にもつ能力を最大限に引き出すことが、結局は本校が社会で評価される好循環を生むという考えに立ち、在校生のもつ潜在能力への刺激を狙い、特に高校生に対して一層進路企画を充実させていく。近年は積極的にOBの研究室・会社を訪問することで生徒が大きな刺激を受けている。今後もこうした機会を拡充させていきたい。

このような充実した教育活動を実践するために、2025年度より授業料を月額2,000円、教育環境整備費を1,000円増額させていただいた。今後15年を見据えた財務中期見通しを策定し、必要となる支出増相当分として算出した金額である。今後も物件費、人件費の増額が見込まれるが、様々な変数がより精確に中期見通しに反映されるよう努めていく。また、小学校のクラス定員減による学納金減収に対して、その相殺分として定員減実施学年に教育環境整備費をさらに月額4,000円増額した。

この結果、翌年度繰越支払資金は、前年度2024年度作成の中期見通し（学費値上げ前）と比べ今後15年間漸増し、2036年度には10億に回復する見込みである。この数字は2023年度より次期校舎建築のため毎年1億の積立を始めたが、これを特定資産化した上での数字である。また基本金組入前当年度収支差額の構成比（収支係数）も各年度おおよそ0.4%程度の改善を試算している。

このように学費の増額により財務における一定程度の回復は確認できた。これに続き、2025年度秋には中学・高校のクラス定員減にともなう教育環境整備費の改定を行う。さらには、今後より一層充実した指導・教育環境の整備を目指し、必要に応じて再度の学費改定も視野に入れたい。当今叫ばれている「働き方改革」における業務の削減は、少子化に呼応する形で教職員の数も減らすべきだという考えがある中で、少子化の今こそ、桐朋は少ない児童・生徒に対してより責任をもって学力・人格の形成に関与すべきだと考える。そのためにはどうしても教員の増員が望まれる。理想の学校運営に必要な人件費は捻出した上で財務の見通しを持ちたい。

財務を考える上で、人件費に加えて施設設備関連の支出がある。今後ICT関連の支出は恒常的に見込まれる。また現校舎が竣工10年を迎え、点検・改修の時期に入った。これら施設設備関連の支出は大規模な額が計上されるため、実施の行程スケジュールは十分な余裕をもって作成したい。実施にあたっては可能な限り補助金の獲得に努める。なお2025年度は中高普通教室のLED照明交換が予定されており、相応の補助金獲得が見込まれている。

最後に、男子部門でも働き方改革は喫緊の課題である。2026年1月より公立学校では教職調整額が4%から年ごとに1%ずつ増加し、10%まで上がることが決まった。男子部門でも教職調整額の意義を再確認し、これと関連づけながら給与体系・働き方の全体を見直すことが求められる。同時に、育児世代への支援、メンタル不調者への対応、研修制度・自己研鑽のための支援等、どれもが必要なものばかりで支出の増は免れえない。また、昨今の教職員の負担の一因として業務の専門化がある。児童・生徒のメンタル面での指導（カウンセリング）、外部機関（弁護士、社労士、児童相談所、警察など）との連携等、これからは教職員が意識的に体得すべきスキルではあるが、一方、専門的な見地は専門家に依頼したほうが教職員の時間面・精神面の負担は圧倒的に緩和される。これらも必要な経費として計上することが働き方改革に通じる。教職員の心が安定し、余裕をもって児童・生徒に向き合える・業務に取り組めることが、よい良い教育を生み出す前提条件である。いずれもコストのかかることばかりではあるが、必要なものは計上し、そのための財源を考えていく。学費の増、支出の削減などすべての面で中長期的スパンに立って検討を行っていきたい。

（２）女子部門

桐朋学園では2024年度より、中期事業計画を従来の「ローリング方式」から、5年間の固定型プランへと刷新した。この新たな方式では、年度ごとに方針を変更するのではなく、5年間の明確な目標を定め、進捗状況を毎年度検証しながら着実に遂行することを目的としている。本報告は、この新体制のもとで迎えた初年度である2024年度に、女子部門が取り組んだ施策とその成果、さらに今後の課題について総括するものである。女子部門は依然として財務状況が厳しく、その改善を最重要課題とした一年であった。

八ヶ岳高原寮については、老朽化に伴う施設維持管理に関する課題を抱えている。こうした状況を抜本的に改善するため、当初は2024年11月の全学集会で、施設の存廃を含めた方針決定を行う予定であった。しかし、過去10年間の財務推移や教育的価値に関する議論・共有はなされたものの、結論には至らなかった。そのため、最終判断は2025年度内に延期され、施設の維持・廃止に加えて、利用率の向上、賃貸活用、さらには売却の可能性も含めた多角的な再検討を進めることとなった。

校舎改修計画については、建設市場における資材価格の高止まりと人件費の上昇により、4年前と比べて建築費が約1.4倍に増加するなど、コストが著しく上昇している。さらに、2024年度当初予算では0.9％と想定していた借入金利が、2025年2月時点で2.3％に上昇し、資金調達環境も悪化した。これにより、当初計画通りに37億円を借り入れても改修可能範囲は限定的となり、現行の財務状況下では追加借入も困難であることが明らかとなった。こうした状況を踏まえ、2025年度中に「計画規模の縮小」または「全面的な見直し」を決定し、今後10〜20年を見据えた長期的な校舎建築計画の策定が求められる。

また、2022年度に発生した屋内プールの天井パネル落下事故への対応として、2025年1月より改修工事を実施し、工期は春休み期間中に完了した。工事中には内壁や柱など複数箇所においてコンクリートの剥落の危険性が確認され、補修費として約385万円の追加支出が生じた。これらの費用は、施設設備引当特定資産の取り崩しにより賄っている。水泳の授業が実施できなかった期間において体育科教員の協力のもとカリキュラムを再編成し、教育活動への影響を最小限に抑えることができた。

入学者数について、短期大学では演劇専攻63名、音楽専攻35名の計98名となり、前年から24名増加しており、コロナ禍以前の水準に回復しつつある。中学校では175名の入学者を迎え、2024年度に引き続き順調に推移している。その結果、中高の総在籍者数が2025年4月時点で1,014名に達し、6年ぶりに1,000名を超えた。小学校と幼稚園においても、東京都全体で少子化傾向が進行する中で定員を充足しており、従来の教育活動の積み重ねや、2024年度の広報活動の成果が現れている。

学納金収入は入学者増に伴い堅調に推移している一方、人件費の負担は依然として大きい。しかし、今後8年間にわたり毎年3〜4名の専任教職員が定年退職を迎える見通しであり、計画的な人事戦略により後任を補充し、財務改善を進めていく必要がある。人件費の適正化と教育の質の維持の両立が、今後の重要課題となる。

今後も少子化の進行が予想される中で、女子部門では学校規模の最適化や教育プログラムの再構築を含む中長期的ビジョンの策定が急務である。2025年度以降、八ヶ岳高原寮の将来構想の決定、校舎再開発における資金調達計画の具体化、さらには少子化を見据えた教育方針および定員政策の明確化を重点課題とし、財務の健全化を図りながら、教職員・生徒学生・保護者・同窓生・支援者の皆さまと共に、未来志向の女子部門を築いていく所存である。

（３）音楽部門

2024年度決算における音楽部門の単年度収入3,130,585千円のうち、学生生徒等納付金収入は2,499,298千円であり、収入全体の８割近くを占めている。そのうち、最も比率が高いのは大学学部の学生納付金1,222,947千円（校納金のうちおよそ5割）であるが、その次は音楽教室の生徒からの納付金743,663千円（校納金のうちおよそ3割）である。

各学校別学生生徒等納付金　　（単位：円）

	2024年度		2023年度
1. 大学学部	**1,222,946,974**	48.93%	1,347,417,751
2. 大学院	**173,245,399**	6.93%	194,887,251
3. 高校	**189,709,584**	7.59%	213,754,014
4. CD,SD、研究生	**119,028,750**	4.76%	123,777,500
5. 音楽教室	**743,662,607**	29.76%	743,796,278
6. 大学院大学	**11,600,000**	0.46%	9,900,000
7. OA	**39,105,000**	1.57%	38,096,666

その収入源の大きな部分が、2023年度に比べて減じてしまったことは、経営上、大きな問題であると認識している。

大学学部の入学者定員を180名から130名に変更し、入定変更後の最初の年となった2025年度は、135名の新入生を迎えることができた。学部新入生の定員割れを避けて新年度をスタートできたわけであるが、2024年度の学部１年生111名という落ち込みを今後3年間は抱えて行くことになり、経営上の留意点と言える。

学部の入学者定員を縮小した以上、今後目指して行く専任教員数の見直しが必須であり、実際にその検討を始めている。支出の大きな部分である教職員の人件費に関して、学生生徒数に見合った専任教職員数の見出し、それに沿った採用計画を進めて行く。

学部に次ぎ学生生徒等納付金の大きな比率を占めているのは、子供のための音楽教室の生徒からの校納金である。子供の数が減少して行くことが厳然たる事実である以上、音楽教室の生徒集めが今後も益々厳しくなることは論を俟たない。2024年度の決算においても、音楽教室全体の収支はコロナ禍以前のおよそ3千万円には遠く及ばない額となった。音楽教室は音楽部門の幹にあたる教育機関であり、教育機関である以上必ずしも黒字を出すことが容易ではない。しかしながら、赤字解消が難しいとしても、各音楽教室の収支が改善されれば、音楽部門全体の学校経営にとって大きな助けとなるはずである。音楽教室の規模を維持しながらも、収支の改善に向けた策を検討、実施すべきである。

Ⅳ 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

1　関係する決議の概要

学校法人桐朋学園は、私立学校法第148条第１項及び第36条第３項第５号に定めるところにより、2024年７月16日理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針（下記）を決定しました。

1　経営に関する管理体制

①　理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令及び寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。

②　寄附行為並びに「理事会運営等規程」及び「評議員会運営等規程」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。

③　男子部門及び女子部門の「理事職位内規」、音楽部門の「理事職位規程」に基づき、業務を執行する代表理事及び選出理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。

④　男子部門、女子部門、音楽部門及び法人本部（以下「三部門等」という。）それぞれにおいて、職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。

⑤　理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び三部門等がそれぞれ定める「文書保存規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。

⑥　内部監査を実施する組織を設けて各部署の職務執行状況等を定期的に監査し、業務の適正性及び効率性を確保する。

2　リスク管理に関する体制

①　リスク管理に関し、三部門等において体制及び規程等を整備し、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にする。

②　「個人情報保護方針」及び三部門等がそれぞれ定める「個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。

③　事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。

④　内部監査を実施する組織は、職務執行部署において重要リスクが適切に管理されているかを適宜監査し、その結果を理事長に報告する。

⑤　本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。

⑥　災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。

⑦　研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。

⑧　理事会は、毎年、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

3　コンプライアンスに関する管理体制

①　理事及び職員が法令並びに寄附行為及び本法人の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、三部門等においてコンプライアンスに関する規程等を定める。

②　本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。

③　「公益通報等に関する規程」を周知するとともに、匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いは行わない。

④　内部監査を実施する組織は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事長に報告する。これを受けて、理事長は理事会に報告のうえ、代表理事とともに所要の改善を図る。

⑤　法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、コンプライアンスに関する規程に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

4　監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

①　監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。

②　監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。

③　監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。

④ 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
⑤ 監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、独立性を有する補助職員を配置する。
⑥ 補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとし、当該補助職員の異動、人事評価及び懲戒等については、監事の意見を尊重する。
⑦ 補助職員は、監事に同行して、理事会、評議員会等の重要な会議及び理事長との定期的な会合に陪席する。
⑧ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、代表理事並びに監事に報告する。
⑨ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
⑩ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
⑪ 監事がその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

2　体制整備及び運用状況の概要

(1) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書・帳簿・その他の資料等について、保存及び管理に関する規程を定めており、規程に基づき適切に職務を執行しています。

法人の計算書類及び事業報告書は、法人ホームページにおいて閲覧を可能としています。

理事会及び評議員会の議事録並びに理事長及び業務執行理事から構成される「法人運営審議会」の議事録は、適正に作成し、文書ファイルに綴じて保管しています。理事会及び評議員会の議事録については、閲覧に備えています。

(2) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

学生生徒等及び教職員の安全確保を目的に各部門に保安委員会を設置し、責任者は業務執行理事が務めています。

緊急時の対応については、各部門において規程を定めていますが、校門で入構証を確認する体制を整備し、現在ではそれが定着しています。

東日本大震災、新型コロナウイルスの対応から得た経験・知見を活かす取り組みも行っています。2023年度では、女子部門が調布市と連携して避難所設置訓練を実施するなど、業務執行理事を中心に避難所における生活環境の確保を学びました。また、情報セキュリティについて、同部門では情報関係委員会を中心に検討を続けています。重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知を図っていますが、セキュリティ体制の体系化が今後の検討課題です。

(3) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

男子部門及び女子部門では「理事職位内規」、音楽部門では「理事職位規程」において、業務執行理事の各部門における担当業務が規定されており、各部門の業務執行理事は規程に基づき適切かつ迅速にその職務を執行しています。

業務執行理事のうち代表理事は、最終決裁権者として三部門それぞれの稟議規程に明記されています。

三部門にはそれぞれ事務局があり、それぞれ事務分掌規程を持っています。規程に基づき各事務局は適正にその職務を執行していますが、他方、共通する事務の統合など、効率的な運営も今後の検討課題です。

(4) 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

2024年度は理事会を10回開催しました。各議案の審議時間の確保、論点の明確化により、非業務執行理事との十分な意見交換を可能とする工夫をし、法令及び寄附行為に基づく適切な運営を行ってきました。

評議員会は４回開催しました。予算・決算並びに事業計画、中期計画など法定事項のほか、学費及び中長期の財務計画についても、評議員会の意見を聴取した上で、決定しています。

また、理事長及び業務執行理事から構成される「法人運営審議会」を原則月２回開催し、業務執行の適正性を確保するほか、理事会・評議員会における審議の効率性も確保しています。

2024年度において、理事会及び評議員会の役割や権限、運営に関する事項を定めた「理事会運営等規程」「評議員会運営等規程」を制定（2025年１月）しました。2025年度以降は、寄附行為に加えて両規程に基づき、理事会及び評議員会をより一層適切に運営してまいります。

「内部監査規程」を制定（2025年２月）し、監査組織として「内部監査委員会」を設けることとしました。2025年度からの実施に向けて具体的な実施手順等を作成しているところです。

(5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

「監事監査規程」を制定(2025年３月)し、監事監査の環境整備を行いました。

具体的には、監事が補助職員を求めた場合の対応、当該補助職員の独立性の確保、監事の職務の執行について生じる費用の前払い又は償還手続き等、監事監査の適正性を確保するための必要事項を定めています。

附属明細書

2024年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の付属明細書は作成していません。